

## 【表紙】

|                                          |                        |
|------------------------------------------|------------------------|
| 【提出書類】                                   | 訂正有価証券届出書              |
| 【提出先】                                    | 関東財務局長殿                |
| 【提出日】                                    | 2021年5月20日提出           |
| 【発行者名】                                   | 野村アセットマネジメント株式会社       |
| 【代表者の役職氏名】                               | C E O兼代表取締役社長 小池 広靖    |
| 【本店の所在の場所】                               | 東京都江東区豊洲二丁目2番1号        |
| 【事務連絡者氏名】                                | 松井 秀仁                  |
| 【電話番号】                                   | 03-6387-5000           |
| 【届出の対象とした募集（売出）内国投資<br>信託受益証券に係るファンドの名称】 | マイストーリー・株100（確定拠出年金向け） |
| 【届出の対象とした募集（売出）内国投資<br>信託受益証券の金額】        | 1兆円を上限とします。            |
| 【縦覧に供する場所】                               | 該当事項はありません。            |

## 1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

本日、半期報告書を提出いたしましたので、2020年11月19日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）の関係情報を更新するため、また、記載事項の一部に変更がありますので本訂正届出書を提出するものです。

## 2【訂正の内容】

原届出書の下記の記載事項につきましては内容を更新・訂正いたします。

第二部ファンド情報 第1ファンドの状況 5運用状況

なお、原届出書の「第二部ファンド情報 第3ファンドの経理状況」において「1財務諸表」につきましては「中間財務諸表」が追加され、「2ファンドの現況」につきましては内容を更新・訂正いたします。

また、それ以外の訂正事項につきましては、＜訂正前＞および＜訂正後＞に記載している下線部\_\_は訂正部分を示し、＜更新後＞の記載事項は原届出書の更新後の内容を示します。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1 ファンドの性格

#### （3）ファンドの仕組み

< 更新後 >

■ 委託会社の概況(2021年4月末現在) ■

・ 名称

野村アセットマネジメント株式会社

・ 資本金の額

17,180百万円

・ 会社の沿革

1959年12月 1 日

野村證券投資信託委託株式会社として設立

1997年10月 1 日

投資顧問会社である野村投資顧問株式会社と合併して野村  
アセット・マネジメント投信株式会社に商号を変更

2000年11月 1 日

野村アセットマネジメント株式会社に商号を変更

・ 大株主の状況

| 名称             | 住所              | 所有株式数      | 比率   |
|----------------|-----------------|------------|------|
| 野村ホールディングス株式会社 | 東京都中央区日本橋1-13-1 | 5,150,693株 | 100% |

#### 2 投資方針

#### （2）投資対象

< 更新後 >

主として有価証券に投資する投資信託証券 を主要投資対象とします。

投資信託の受益証券（投資法人の投資証券を含みます。）とします。

ファンドは、以下に示す投資信託証券（「指定投資信託証券」といいます。）を主要投資対象とします。

| 主要投資対象 | 指定投資信託証券                                                      |
|--------|---------------------------------------------------------------|
| 国内株式   | ノムラ・ジャパン・オープンF(適格機関投資家専用)                                     |
|        | ストラテジック・バリュー・オープンF（適格機関投資家専用）                                 |
|        | ノムラ - T&D J Flag日本株 F（適格機関投資家専用）                              |
|        | シュローダー日本ファンドF（適格機関投資家専用）                                      |
|        | 日本フォーカス・グロースF（適格機関投資家専用）                                      |
|        | SJAMバリュー日本株F（適格機関投資家専用）                                       |
|        | One国内株オープンF（F0Fs用）（適格機関投資家専用）                                 |
|        | スパークス・厳選投資・日本株ファンドF（適格機関投資家専用）                                |
|        | コムジェスト ジャパンエクイティファンドF（適格機関投資家専用）                              |
|        | アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンドF（適格機関投資家専用）                             |
| 外国株式   | グローバル・エクイティ（除く日本）・ファンドF（適格機関投資家専用）                            |
|        | 野村DFA海外株式バリューファンドF（適格機関投資家専用）                                 |
|        | サンズ・グローバル・エクイティ（除く日本）F（適格機関投資家専用）                             |
|        | シュローダー・アジア・パシフィック株式ファンドF（適格機関投資家専用）                           |
|        | アメリカン・オープンF(適格機関投資家専用)                                        |
|        | ベイリー・ギフォード米国成長株ファンドF（適格機関投資家専用）                               |
|        | MFS欧州株ファンドF（適格機関投資家専用）                                        |
|        | ティー・ロウ・プライス 海外株式ファンドF（適格機関投資家専用）                              |
|        | ABグローバル・コア・エクイティ・ファンドF <外国籍投資信託>                              |
|        | ノムラ・ワールド（除く日本）エクイティ・ファンドF <外国籍投資信託>                           |
|        | AB SICAV - セレクトUSエクイティ・ポートフォリオ クラス S1シェアーズ（円建て円ヘッジ） <外国籍投資法人> |

上記は2021年5月20日現在の指定投資信託証券の一覧です。今後、上記指定投資信託証券の一部が名称が変更となる場合、または繰上償還等により指定投資信託証券から除外される場合、あるいは、ここに記載された以外の投資信託証券が新たに指定投資信託証券に追加となる場合等があります。

なお、デリバティブの直接利用は行ないません。

## 投資の対象とする資産の種類(約款第17条)

この信託において投資の対象とする資産(本邦通貨表示のものに限ります。)の種類は、次に掲げるものとします。

- 1 次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)

イ 有価証券

ロ 約束手形(イに掲げるものに該当するものを除きます。)

ハ 金銭債権(イ及びロに掲げるものに該当するものを除きます。)

- 2 次に掲げる特定資産以外の資産

イ 為替手形

有価証券の指図範囲(約款第18条第1項)

委託者は、信託金を、主として別に定める投資信託証券(以下「指定投資信託証券」といいます。)のほか、次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除くものとし、本邦通貨表示のものに限ります。)に投資することを指図します。

- 1 コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
- 2 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前号の証券の性質を有するもの
- 3 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。)
- 4 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)

なお、第3号の証券を以下「公社債」といい、公社債にかかる運用の指図は買い現先取引(売戻し条件付の買い入れ)および債券貸借取引(現金担保付き債券借入れ)に限り行なうことができるものとします。

金融商品の指図範囲(約款第18条第2項)

委託者は、信託金を、上記「(2)投資対象 有価証券の指図範囲」に掲げる有価証券のほか、次の金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みません。)により運用することを指図することができます。

- 1 預金
- 2 指定金銭信託(上記「(2)投資対象 有価証券の指図範囲」に掲げるものを除く。)

### 3 コール・ローン

### 4 手形割引市場において売買される手形

(参考)指定投資信託証券について

以下はファンドが投資を行なう投資信託証券(「指定投資信託証券」といいます。)の投資方針、関係法人、信託報酬等について、2021年5月20日現在で委託会社が知りうる情報等を基に記載したものです(個別に時点の記載がある場合を除きます。)

今後、指定投資信託証券の各委託会社(運用会社)の都合等により、記載の内容が変更となる場合があります。

また、ここに記載した指定投資信託証券は上記日付現在のものであり、今後、繰上償還等により指定投資信託証券から除外される場合、あるいは、ここに記載された以外の投資信託証券が新たに指定投資信託証券に追加となる場合等があります。

投資の基本方針のうち<収益分配方針>につきましては、以下の通りです。

[各F]

・運用による収益は、期中に分配を行わず、信託終了時まで信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

詳しくは、各指定投資信託証券の「(E)投資方針等 (4)収益分配方針」をご覧ください。

指定投資信託証券の名称について、「(適格機関投資家専用)」の部分を省略して記載する場合があります。

また、「ファンド」という場合があります。

指定投資信託証券の一部の受託会社について、信託事務処理の一部を他の信託銀行に再信託する場合があります。

## ノムラ・ジャパン・オープンF(適格機関投資家専用)

### (A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ・ジャパン・オープン マザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、当面、TOPIXをベンチマークとします。

ファンドは、「ノムラ・ジャパン・オープン マザーファンド」「マザーファンド」といいます。)を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接株式に投資する場合があります。

(B)信託期間

無期限(2001年8月28日設定)

(C)ファンドの関係法人

| 関係   | 名称               |
|------|------------------|
| 委託会社 | 野村アセットマネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 野村信託銀行株式会社       |

(D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.74%の率を乗じて得た額とします。上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

(E)投資方針等

(1)投資対象

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

(2)投資態度

運用については、ボトムアップ・アプローチをベースとしたアクティブ運用を行ないます。

わが国の株式への投資にあたっては、上場株式および店頭登録銘柄の中から、株価の割安性をベースに企業の収益性、成長性、安定性等を総合的に勘案して銘柄を選定し、投資を行なうことを基本とします。なお、一部、アジア諸国の株式に投資を行なう場合があります。

株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。非株式割合(株式以外の資産への実質投資割合)は、原則として信託財産総額の50%以下を基本とします。ただし、市場動向等により弾力的に変更を行なう場合があります。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合もあります。

(3)主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以内とします。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等(同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。)の利用は行ないません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

## ストラテジック・バリュース・オープンF（適格機関投資家専用）

### (A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるストラテジック・バリュース・オープン マザーファンドへの投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、「ストラテジック・バリュース・オープン マザーファンド」(「マザーファンド」といいます。)を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

### (B)信託期間

無期限(2007年10月11日設定)

**(C) ファンドの関係法人**

| 関係   | 名称               |
|------|------------------|
| 委託会社 | 野村アセットマネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社     |

**(D) 管理報酬等**

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.60%の率を乗じて得た額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

**(E) 投資方針等****(1) 投資対象**

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

**(2) 投資態度**

株式への投資にあたっては、わが国の金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)している株式の中から、資産・利益等に比較して株価が割安と判断され、今後の株価上昇が期待できる銘柄を厳選し、投資を行なうことを基本とします。

株式の実質的な組入にあたっては、フルインベストメントを基本とします。非株式割合(株式以外の資産への実質投資割合)は、原則として信託財産総額の50%以下を基本とします。ただし、投資環境、資金動向などを勘案して、運用担当者が適切と判断した際等には先物取引の利用も含めて株式組入比率を引き下げることがあります。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

**(3) 主な投資制限**

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等(同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。)の利用は行ないません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

## ノムラ - T&D J Flag日本株 F(適格機関投資家専用)

### (A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるノムラ - T&D J Flag日本株 マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主としてわが国の株式に実質的に投資を行ない、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドは、「ノムラ - T&D J Flag日本株 マザーファンド」(「マザーファンド」といいます。)を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、直接株式に投資する場合があります。

### (B)信託期間

無期限(2016年10月13日設定)

### (C)ファンドの関係法人

| 関係                 | 名称                |
|--------------------|-------------------|
| 委託会社               | 野村アセットマネジメント株式会社  |
| 受託会社               | 野村信託銀行株式会社        |
| マザーファンドの<br>投資顧問会社 | T&Dアセットマネジメント株式会社 |

### (D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年1.0%の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬の中の委託会社が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

### (E)投資方針等

**(1)投資対象**

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

**(2)投資態度**

株式への実質的な投資にあたっては、主として個別企業の調査・分析等を中心とした「ボトムアップアプローチ」に基づいて、個別銘柄選定、ポートフォリオの構築等を行なうことを基本とします。

株式の実質組入比率は、原則として高位を基本とします。非株式割合（株式以外の資産への投資割合）は、原則として信託財産総額の50%以下を基本とします。ただし、市況動向等を勘案して、委託者が適切と判断した際等には先物取引等の活用も含めて株式組入比率を引き下げる場合があります。

T&Dアセットマネジメント株式会社にマザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限の一部を委託します。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

**(3)主な投資制限**

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の利用は行ないません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

**シュローダー日本ファンドF(適格機関投資家専用)****(A)ファンドの特色**

ファンドは、親投資信託であるシュローダー日本マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資し、信託財産の成長を目指して運用を行います。

ファンドは、TOPIX（東証株価指数）をベンチマークとします。ファンドのベンチマークは、株式市場の構造変化等によっては見直す場合があります。

**(B)信託期間**

無期限（2015年4月9日設定）

**(C)ファンドの関係法人**

| 関係   | 名称                         |
|------|----------------------------|
| 委託会社 | シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社               |

**(D)管理報酬等**

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に税抜年0.74%を乗じて得た額とします。上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および信託事務の諸費用(監査費用を含みます)を信託財産から支払います。

**(E)投資方針等**

(1)投資対象

主として、シュローダー日本ファンドF(適格機関投資家専用)と実質的に同一の運用の基本方針を有する親投資信託であるシュローダー日本マザーファンド受益証券に投資し、信託財産の成長を目指します。なお、直接株式に投資する場合があります。

(2)投資態度

マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の株式に投資し、信託財産の成長を目的として、積極的な運用を行います。

運用にあたっては、TOPIX(東証株価指数)をベンチマークとします。

株式への投資にあたっては、企業業績、収益成長力、市場性、株価水準等を勘案し、中長期的に成長性を見込める銘柄を中心に投資を行う予定です。

株式等の実質組入比率については原則としてフルインベストメントで積極的な運用を行います。

株式以外の資産への実質投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

(3)主な投資制限

株式への実質投資割合には、制限を設けません。

デリバティブの直接利用は行いません。

投資信託証券(マザーファンド受益証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

外貨建資産への投資は行いません。

一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会の規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

**日本フォーカス・グロースF（適格機関投資家専用）**

**(A)ファンドの特色**

ファンドは、親投資信託である日本長期成長株集中投資マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)の受益証券への投資を通じて、主として日本の上場株式(これに準ずるものを含みます。)に投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

マザーファンドにおいては、個別企業の分析を重視したボトム・アップ手法による銘柄選択を行い、原則として大型株式および中小型株式の中から持続的な成長が期待できると判断する比較的少数の銘柄でポートフォリオを構築し、長期的な投資元本の成長を追求します。

ファンドは、マザーファンドを親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

(B)信託期間

原則として無期限(2020年4月9日設定)

(C)ファンドの関係法人

| 関係                            | 名称                                           |
|-------------------------------|----------------------------------------------|
| 委託会社                          | ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社                  |
| 受託会社                          | みずほ信託銀行株式会社                                  |
| ファンドおよび<br>マザーファンドの<br>投資顧問会社 | ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(シンガポール)ピーティーイー・リミテッド |

(D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.65%の率を乗じて得た額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支払います。その他、信託財産に係る監査費用等として信託財産の純資産総額に対して年率0.10%を信託財産から支払います(なお、当該率については、年率0.10%を上限として変更する場合があります。)

(E)投資方針等

(1)投資対象

日本の上場株式(これに準ずるものを含みます。)を実質的な主要投資対象とします。

(2)投資態度

主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入比率は高位に保ちます(ただし、投資環境等により、当該受益証券の組入比率を引き下げる場合もあります。)

信託財産は、マザーファンドを通じて主として日本の上場株式(これに準ずるものを含みます。)に投資します。マザーファンドにおいては、個別企業の分析を重視したボトム・アップ手法による銘柄選択を行い、原則として大型株式および中小型株式の中から持続的な成長が期待できると判断する比較的少数の銘柄でポートフォリオを構築し、長期的な投資元本の成長を追求します。

事業の収益性、経営陣の質に加えて株価評価基準の総合評価、目標株価からの乖離、流動性等を勘案して、銘柄選択を行います。

投資状況に応じ、マザーファンドと同様の運用を直接行うこともあります。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(シンガポール)ピーティーイー・リミテッドに日本株式の運用(デリバティブ取引等に係る運用を含

みます。)の指図に関する権限を委託します。

市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

(3)主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。

投資信託証券(マザーファンドの受益証券および上場投資信託証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。

株式以外の資産(マザーファンドの信託財産に属する株式以外の資産のうち、この投資信託の信託財産に属するとみなした部分を含みます。)への投資は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会規則に従い、委託者が定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以下とし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

SJAM/バリュー日本株F（適格機関投資家専用）

(A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるSJAM/バリュー日本株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式に実質的に投資を行い、信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

独自の調査分析に基づいて算出した理論株価と市場価格を比較し、割安となっている銘柄に投資することを基本にリスク管理を行いつつ最適なポートフォリオを構築し、「東証株価指数(TOPIX)（配当込み）」を中長期的に上回る運用成果を目指します。

ファンドは、SJAM/バリュー日本株・マザーファンドを親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、わが国の株式に直接投資する場合があります。

(B)信託期間

無期限(2017年4月12日設定)

(C)ファンドの関係法人

| 関係 | 名称 |
|----|----|
|----|----|

|      |                         |
|------|-------------------------|
| 委託会社 | S O M P Oアセットマネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 野村信託銀行株式会社              |

(D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.50％の率を乗じて得た額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

(E)投資方針等

### (1)投資対象

わが国の株式を実質的な主要投資対象とします。

### (2)投資態度

SJAM/バリュー日本株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式へ投資し、信託財産の長期的な成長を目指して、積極的な運用を行います。なお、わが国の株式に直接投資する場合があります。

独自の調査分析に基づいて算出した理論株価と市場価格を比較し、割安となっている銘柄に投資することを基本にリスク管理を行いつつ最適なポートフォリオを構築し、「東証株価指数(TOPIX) (配当込み)」を中長期的に上回る運用成果を目指します。

株式(他の投資信託受益証券を通じて投資する場合は、当該他の投資信託の信託財産に属する株式を含みます。)の組入比率は原則として信託財産総額の50%超(高位に維持)を基本とします。なお、株式以外の資産(他の投資信託受益証券を通じて投資する場合は、当該他の投資信託の信託財産に属する株式以外の資産のうち、この投資信託の信託財産に属するとみなした部分を含みます。)への投資は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

資金動向、市況動向、その他特殊な状況等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

### (3)主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

投資信託証券(親投資信託受益証券および上場投資信託証券等を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等(同規則に定めるデリバティブ取引等を言います。)の利用は行いません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

## One国内株オープンF（FOFs用）（適格機関投資家専用）

### (A)ファンドの特色

ファンドは、主として親投資信託であるOne国内株オープンマザーファンドへの投資を通じて、わが国の上場株式に実質的に投資を行い、マクロの投資環境の変化に応じて、その時々で最適と判断される投資スタイルで運用を行います。

ファンドは、「東証株価指数(TOPIX)」を運用に当たったのベンチマークとし、ベンチマークを上回る投資効果をめざします。

**(B)信託期間**

無期限(2019年10月9日設定)

**(C)ファンドの関係法人**

| 関係   | 名称                |
|------|-------------------|
| 委託会社 | アセットマネジメントOne株式会社 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社      |

**(D)管理報酬等**

純資産総額に対して、税抜年0.61%

< 内訳 >

委託会社 税抜年0.57%

販売会社 税抜年0.02%

受託会社 税抜年0.02%

**(E)投資方針等****(1)投資対象**

「One国内株オープンマザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券を主要投資対象とします。

**(2)投資態度**

主として、マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の上場株式に実質的に投資します。

マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。

「東証株価指数(TOPIX)」を運用に当たってのベンチマークとし、ベンチマークを上回る投資効果をめざします。

実質非株式割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

実質外貨建資産割合は、原則として信託財産総額の30%以下とします。

ファンドの資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

当ファンドは、ファンド・オブ・ファンズのみを取得させることを目的とするものです。

**(3)主な投資制限**

マザーファンド受益証券への投資割合には、制限を設けません。

株式への実質投資割合には、制限を設けません。

マザーファンド受益証券以外の投資信託証券(上場投資信託証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

デリバティブ取引の利用はヘッジ目的に限定しません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エク

ポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

スパークス・厳選投資・日本株ファンドF(適格機関投資家専用)

(A)ファンドの特色

ファンドは、わが国の上場株式の中から、魅力的なビジネスと卓越した経営陣をあわせ持つ企業を投資対象とします。これらの企業に対して、割安な価格で集中的に投資を行い、長期で保有することを基本とします。

(B)信託期間

無期限（2016年10月11日設定）

(C)ファンドの関係法人

| 関係   | 名称                    |
|------|-----------------------|
| 委託会社 | スパークス・アセット・マネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社          |

(D)管理報酬等

信託報酬の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して税抜年0.74%を乗じて得た額とします。  
上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

(E)投資方針等

### (1)投資対象

わが国の株式を主要投資対象とします。

### (2)投資態度

わが国の金融商品取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所をいいます。以下同じ。）に上場している株式の中から、魅力的なビジネスと卓越した経営陣をあわせ持つ企業を投資対象とします。これらの企業に対して、割安な価格で集中的に投資を行い、長期で保有することを基本とします。

ファンドの資金動向や市況動向等に急激な変化が生じたとき、ならびに残存元本が運用に支障をきたす水準になったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

### (3)主な投資制限

株式への投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への投資は行いません。

新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

同一銘柄の新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の転換社債ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券（上場投資信託を除きます。）への投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

金融商品取引法第2条第20項に定める取引（以下、「デリバティブ取引」といいます。）については、ヘッジ目的に限定して行うものとし、一般社団法人投資信託協会の規則の定めに従い、デリバティブ取引等（デリバティブ取引および新株予約権証券、新投資口予約権証券又はオプションを表示する証券若しくは証書に係る取引及び選択権付債券売買を含みます。）の残高に係る想定元本の合計額が、信託財産の純資産総額を超えないこととします。

一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

## コムジェスト ジャパンエクイティファンドF（適格機関投資家専用）

### (A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託である「コムジェスト日本株式マザーファンド」への投資を通じて、日本の株式市場に上場する企業が発行する株式等を中心に投資を行います。

徹底したファンダメンタル分析に基づいて、高い利益成長が期待される企業を中心に個別銘柄を選定し、集中的に投資することで信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

(B)信託期間

無期限(2020年4月9日設定)

(C)ファンドの関係法人

| 関係                 | 名称                                                                                                                      |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委託会社               | コムジェスト・アセットマネジメント株式会社                                                                                                   |
| 受託会社               | 野村信託銀行株式会社                                                                                                              |
| マザーファンドの<br>投資顧問会社 | コムジェスト・エス・エー<br>*コムジェスト・エス・エーは当ファンドの運用に当たり、当社(コムジェスト・アセットマネジメント株式会社)から日本市場に上場する企業が発行する株式および新株予約権、不動産投資信託にかかる投資助言を受領します。 |

(D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.65%の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が 受ける報酬は、ファンドの信託報酬の中の委託会社が受ける報酬から支払われます。上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

(E)投資方針等

(1)投資対象

コムジェスト日本株式マザーファンド(以下「親投資信託」といいます。)の受益証券を主要投資対象とします。

(2)投資態度

主として親投資信託の受益証券への投資を通じて日本株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

親投資信託の受益証券への組入比率は、原則として高位を維持することを基本としますが、相場環境によっては親投資信託の組入比率の調整を行います。

有価証券先物取引等はいりません。

有価証券の貸付はいりません。

資金動向、投資対象である日本国の非常事態(金融危機、デフォルト、政治体制の変更等)などによる市況動向等、償還の準備に入った場合、信託財産の規模、あるいはやむを得ない事情が発生した場合は、上記の運用が行われないときがあります。

(3)主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。

同一銘柄の転換社債ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているものへの実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10％以内とします。

投資信託証券(親投資信託の受益証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5％以下とします。

外貨建資産への投資は行いません。

一般社団法人投資信託協会規則に規定する一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10％、合計で20％以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンドF(適格機関投資家専用)

(A)ファンドの特色

ファンドは、信託財産の中長期的な成長を目標として積極的な運用を行うことを目指します。

ファンドは、親投資信託であるアムンディ・ターゲット・ジャパン・マザーファンド受益証券(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通して、国内株式に分散投資を行うことにより、積極的に収益の獲得を目指します。

ファンドは、「アムンディ・ターゲット・ジャパン・マザーファンド」を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

(B)信託期間

無期限(2004年3月4日設定)

(C)ファンドの関係法人

| 関係   | 名称             |
|------|----------------|
| 委託会社 | アムンディ・ジャパン株式会社 |
| 受託会社 | 三菱UFJ信託銀行株式会社  |

(D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.85％の率を乗じて得た額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支払います。

(E)投資方針等

(1)投資対象

わが国の金融商品取引所に上場されている株式および金融商品取引所に準ずる市場に上場されている株式を実質的な主要投資対象とします。

(2)投資態度

企業の資産価値や収益力等から算出される投資価値と比較した株価の割安度(バリュース)に着目した銘柄選択を行い、さらに株主価値の増大を図る余力があると思われる銘柄を厳選し投資します。

株式の実質組入比率は原則として高位を保ちます。

資金動向、市況動向等の急変により上記の運用が困難となった場合、暫定的に上記と異なる運用を行う場合があります。

(3)主な投資制限

株式への実質投資割合には、制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の30%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以内とします。

グローバル・エクイティ（除く日本）・ファンドF（適格機関投資家専用）

(A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるグローバル・エクイティ(除く日本)・マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として日本を除く世界各国(新興国を含みます。)の株式(DR(預託証券)を含みます。)に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。

ファンドはMSCI-KOKUSAI指数(円ベース・為替ヘッジあり) をベンチマークとします。

「MSCI-KOKUSAI指数(円ベース・為替ヘッジあり)」は、MSCI-KOKUSAI指数をもとに、委託会社が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。

ファンドは、「グローバル・エクイティ(除く日本)・マザーファンド」(「マザーファンド」といいます。)を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。なお、株式等に直接投資する場合があります。

(B)信託期間

無期限(2009年4月9日設定)

(C)ファンドの関係法人

| 関係   | 名称               |
|------|------------------|
| 委託会社 | 野村アセットマネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 野村信託銀行株式会社       |

|                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| マザーファンドの<br>投資顧問会社 | GQG・パートナーズ・エルエルシー |
|--------------------|-------------------|

#### (D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.785%の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

#### (E)投資方針等

##### (1)投資対象

日本を除く世界各国(新興国を含みます。)の株式(DR(預託証券)を含みます。)を実質的な主要投資対象とします。

##### (2)投資態度

株式への投資にあたっては、企業の財務状況および収益性、株式の流動性等の観点から、定量的に投資候補銘柄を選別します。

投資候補銘柄について、個別銘柄のファンダメンタルズ分析に基づき、国・地域や業種の分散を勘案したポートフォリオを構築します。

株式の実質組入比率については、原則として高位を基本とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

GQG・パートナーズ・エルエルシーにマザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

##### (3)主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以内とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等(同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。)の利用は行ないません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

野村DFA海外株式バリューファンドF(適格機関投資家専用)

(A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託である野村DFA海外株式バリューマザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として日本を除く世界各国の株式に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。

(B)信託期間

無期限(2020年10月8日設定)

(C)ファンドの関係法人

| 関係                 | 名称                                                                                                                        |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委託会社               | 野村アセットマネジメント株式会社                                                                                                          |
| 受託会社               | 野村信託銀行株式会社                                                                                                                |
| マザーファンドの<br>投資顧問会社 | ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・エル・ピー<br>ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッド<br>ディエフエー・オーストラリア・リミテッド<br>ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・ピーティーイー・リミテッド |

(D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.40%の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

(E)投資方針等

(1)投資対象

日本を除く世界各国の株式を実質的な主要投資対象とします。

(2)投資態度

株式への投資にあたっては、企業の収益性および時価総額、株式の割安性等の観点から定量的に投資候補銘柄を選別します。

株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

下記投資顧問会社にマザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限を委託します。

- ・ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・エル・ピー
- ・ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッド

- ・ディエフエー・オーストラリア・リミテッド
  - ・ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・ピーティーイー・リミテッド
- 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(3)主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

外国為替予約取引の利用はヘッジ目的に限定します。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以内とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の利用は行ないません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

サンズ・グローバル・エクイティ(除く日本)F(適格機関投資家専用)

(A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるサンズ・グローバル・エクイティ（除く日本）マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として日本を除く世界各国（新興国を含みます。）の株式（DR（預託証券）を含みます。）に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として積極的な運用を行なうことを基本とします。

(B)信託期間

無期限（2021年4月8日設定）

(C)ファンドの関係法人

| 関係   | 名称               |
|------|------------------|
| 委託会社 | 野村アセットマネジメント株式会社 |
| 受託会社 | 野村信託銀行株式会社       |

|                    |                           |
|--------------------|---------------------------|
| マザーファンドの<br>投資顧問会社 | サンズ・キャピタル・マネジメント・エル・エル・シー |
|--------------------|---------------------------|

**(D)管理報酬等**

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.65%の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託者が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

**(E)投資方針等****(1)投資対象**

日本を除く世界各国（新興国を含みます。）の株式（DR（預託証券）を含みます。）を実質的な主要投資対象とします。

**(2)投資態度**

株式への投資にあたっては、個別企業の調査・分析等に基づいたボトムアップアプローチにより、企業の経営戦略や財務戦略などを通じて長期的な株主資本成長や利益成長が期待できる銘柄を選定します。

株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

サンズ・キャピタル・マネジメント・エル・エル・シーにマザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

**(3)主な投資制限**

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

外国為替予約取引の利用はヘッジ目的に限定します。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以内とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとな

るデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の利用は行ないません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

シュローダー・アジア・パシフィック株式ファンドF（適格機関投資家専用）

(A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるシュローダー・アジア・パシフィック株式マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、主として

香港、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドを中心とした日本を除くアジア・オセアニア地域の先進国株式に実質的に投資し、信託財産の長期的な成長を目的とした運用を行います。

香港については、香港証券取引所上場の中国企業株を含みます。

ファンドは、MSCIパシフィック・フリー・インデックス（日本を除く）（円ヘッジベース）をベンチマークとします。ファンドのベンチマークは、投資対象地域の株式市場の構造変化等によっては見直す場合があります。

MSCIパシフィック・フリー・インデックス（日本を除く）（円ヘッジベース）は、MSCIパシフィック・フリー・インデックス（日本を除く）（米ドルベース）をもとに、委託会社が独自に為替ヘッジコストを考慮して算出したものです。MSCI Inc. が作成したものではありません。

ファンドは、「シュローダー・アジア・パシフィック株式マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

(B)信託期間

無期限（2009年4月9日設定）

(C)ファンドの関係法人

| 関係                 | 名称                                   |
|--------------------|--------------------------------------|
| 委託会社               | シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社           |
| 受託会社               | 野村信託銀行株式会社                           |
| マザーファンドの<br>投資顧問会社 | シュローダー・インベストメント・マネージメント（シンガポール）リミテッド |

(D)管理報酬等

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に税抜年0.75%を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受け取る報酬は信託財産から直接支払うことは行わず、委託会社が受け取る報酬の中から支払います。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および信託事務の諸費用（監査費用を含みます）を信託財産から支払います。

## (E)投資方針等

### (1)投資対象

香港、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドを中心とした日本を除くアジア・オセアニア地域の先進国株式を実質的な主要投資対象とします。

香港については、香港証券取引所上場の中国企業株を含みます。

### (2)投資態度

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として香港、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランドを中心とした日本を除くアジア・オセアニア地域の先進国株式への投資を行います。

香港については、香港証券取引所上場の中国企業株を含みます。

運用にあたっては、MSCIパシフィック・フリー・インデックス（日本を除く）（円ヘッジベース）をベンチマークとします。ファンドのベンチマークは、投資対象地域の株式市場の構造変化等によっては見直す場合があります。

株式への実質投資にあたっては、企業訪問等による調査・分析に基づいて組入銘柄の選定を行い、各国の市場動向やマクロ経済環境等を考慮し国別配分の調整を行います。

実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

株式の実質組入比率については、原則として高位を基本とします。

マザーファンドの運用にあたっては、シュロダー・インベストメント・マネージメント（シンガポール）リミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

### (3)主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

デリバティブの利用は、ヘッジ目的に限定します。

一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以下とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会の規則にしたがい当該比率以下となるよう調整を行うこととします。

アメリカン・オープンF（適格機関投資家専用）

(A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるアメリカン・オープン・マザーファンドへの投資を通じて、主として米国株式の個別銘柄に実質的に投資を行ない、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行ないます。

ファンドは、S&P500種株価指数を委託会社が円ヘッジベースに換算した指数をベンチマークとします。

ファンドはファミリーファンド方式で運用します。なお、直接有価証券に投資する場合があります。

(B)信託期間

無期限（2001年8月28日設定）

(C)ファンドの関係法人

| 関係                            | 名称                                        |
|-------------------------------|-------------------------------------------|
| 委託会社                          | ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社               |
| 受託会社                          | 三菱UFJ信託銀行株式会社                             |
| ファンドおよび<br>マザーファンドの<br>投資顧問会社 | ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー（GSAMニューヨーク） |

(D)管理報酬等

(1)信託報酬

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.77%の率を乗じて得た額とします。なお、ファンドおよびマザーファンドの各投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託会社が受ける報酬から支払われます。

(2)その他

上記のほか、ファンドの組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支払います。その他、信託財産に係る監査費用等として信託財産の純資産総額に対して年率0.05%を信託財産から支払います（なお、当該率については、年率0.05%を上限として変更する場合があります。）。

(E)投資方針等

(1)投資対象

米国株式の個別銘柄を実質的な主要投資対象とします。

(2)投資態度

米国株式の個別銘柄を中心に投資し、株式等の実質組入比率を高位に保ちながら、長期的に米国株式市場のもたらすリターンを享受することを目指します。

個別銘柄の選択は、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを使用します。定量分析と定性分析による情報を計量モデルに取り込むことにより魅力的と考えられる銘柄を発掘し、ベンチマークからの乖離リスクを計量的に管理しながらポートフォリオを構築、かつその最適化を目指します。

実質組入外貨建資産については、対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー（GSAMニューヨーク）にファンドおよびマザーファンドの米国株式および為替の運用の指図に関する権限を委託します。

市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

(3)主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への投資については、特に制限を設けません。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定しません。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以下とします。

投資信託証券(マザーファンドの受益証券を除きます。)への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会規則に従い、委託者が定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以下とし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会の規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

**ベイリー・ギフォード米国成長株ファンドF(適格機関投資家専用)**

**(A)ファンドの特色**

ファンドは親投資信託である三菱ＵＦＪ国際 ベイリー・ギフォード米国成長株マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、主に米国の金融商品取引所等に上場や登録等をされている株式等（ＤＲ（預託証書）を含みます。以下同じ。）に実質的に投資を行い、主として中長期的な値上がり益の獲得をめざします。なお、米国外の金融商品取引所等に上場や登録等をされている、収益の源泉や資産の大部分を米国に置く企業の株式等にも、信託財産の純資産総額の15%を上

限として実質的に投資を行う場合があります。株式等の運用にあたっては、ベイリー・ギフォード・オーバーシーズ・リミテッドに運用指図に関する権限を委託します。また、ベイリー・ギフォード・オーバーシーズ・リミテッドは委託を受けた運用の指図に関する権限の一部を、ベイリー・ギフォード・アジア（香港）・リミテッドに更に委託することができます。

#### (B)信託期間

無期限（2021年4月8日設定）

#### (C)ファンドの関係法人

| 関係                 | 名称                       |
|--------------------|--------------------------|
| 委託会社               | 三菱ＵＦＪ国際投信株式会社            |
| 受託会社               | 三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社            |
| マザーファンドの<br>投資顧問会社 | ベイリー・ギフォード・オーバーシーズ・リミテッド |

#### (D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.65%の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託会社が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産に係る監査費用等を信託財産から支払います。

#### (E)投資方針等

##### (1)投資対象

三菱ＵＦＪ国際 ベイリー・ギフォード米国成長株マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。

##### (2)投資態度

三菱ＵＦＪ国際 ベイリー・ギフォード米国成長株マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国の金融商品取引所等に上場や登録等をされている株式等（ＤＲ（預託証券）を含みます。以下同じ。）に投資を行います。なお、マザーファンド受益証券への投資を通じて、米国外の金融商品取引所等に上場や登録等をされている、収益の源泉や資産の大部分を米国に置く企業の株式等にも、信託財産の純資産総額の15%を上限として投資を行う場合があります。

マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

##### (3)主な投資制限

株式への実質投資割合に制限を設けません。

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の20％以下とします。

投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5％以下とします。

同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10％以下とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10％以下とします。

同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10％以下とします。

外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。

有価証券先物取引等は価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため行うことができます。

スワップ取引は価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため行うことができます。

外国為替予約取引は効率的な運用に資するため行うことができます。

デリバティブ取引等（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定めるデリバティブ取引をいう。）については、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額として、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないこととします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

MFS欧州株ファンドF（適格機関投資家専用）

(A) ファンドの特色

MFS欧州株 マザーファンド受益証券への投資を通じて、欧州の証券取引所に上場(これに準じるものを含みます。)されている株式を中心に投資し、投資信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

ファンドはMSCI ヨーロッパ インデックス(円ヘッジベース)をベンチマークとします。

ファンドは、「MFS欧州株 マザーファンド」(「マザーファンド」といいます。)を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

(B) 信託期間

無期限(2007年4月5日設定)

(C) ファンドの関係法人

| 関係   | 名称                     |
|------|------------------------|
| 委託会社 | MFSインベストメント・マネジメント株式会社 |

|                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 受託会社                          | 三井住友信託銀行株式会社                  |
| ファンドおよび<br>マザーファンドの<br>投資顧問会社 | マサチューセッツ・ファイナンシャル・サービスズ・カンパニー |

#### (D)管理報酬等

信託報酬の総額は、投資信託財産の純資産総額に税抜年0.649%の率を乗じて得た金額とします。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、投資信託財産に係る監査費用等を投資信託財産から支払います。

#### (E)投資方針等

##### (1)投資対象

欧州の証券取引所に上場(これに準じるものを含みます。)されている株式を実質的な主要投資対象とします。

##### (2)投資態度

欧州の証券取引所に上場(これに準じるものを含みます。)されている株式を実質的な主要投資対象とし、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。

マザーファンドにおける具体的な銘柄の選定にあたっては、「独自のリサーチによる個別企業のファンダメンタル分析に基づく銘柄選択こそが、優れた運用成果を中長期的に獲得するための最良の運用手法である」との投資哲学のもと、徹底したボトムアップ・アプローチによりアクティブに投資を行います。実際に企業リサーチを行うアナリスト自身が“ベスト・アイデア銘柄”を持ち寄ってポートフォリオを運用します。株式の実質組入比率は、原則として高位を維持することを基本とします。

実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。なお、為替ヘッジは、原則としてマザーファンドのベンチマークであるMSCIヨーロッパ インデックスの通貨配分に準じて行います。

マサチューセッツ・ファイナンシャル・サービスズ・カンパニーにマザーファンドの運用の指図(国内の短期金融資産の運用の指図に係る権限を除きます。)ならびにファンドの為替ヘッジの指図に関する権限を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

##### (3)主な投資制限

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

投資信託証券(マザーファンド受益証券および上場投資信託証券を除きます。)への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以内とします。

デリバティブの利用はヘッジ目的に限定します。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

## ティー・ロウ・プライス 海外株式ファンドF（適格機関投資家専用）

### (A)ファンドの特色

ファンドは、親投資信託であるティー・ロウ・プライス 海外株式マザーファンドへの投資を通じて、日本を除く世界各国の株式（エマージング・マーケットも含みます。）に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標として運用を行います。

ファンドは、「ティー・ロウ・プライス 海外株式マザーファンド」（「マザーファンド」といいます。）を親投資信託とするファミリーファンド方式で運用します。

### (B)信託期間

無期限（2019年4月4日設定）

### (C)ファンドの関係法人

| 関係                            | 名称                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委託会社                          | ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社                                                                                                                                                                                 |
| 受託会社                          | 三菱UFJ信託銀行                                                                                                                                                                                            |
| ファンドおよびマザー<br>ファンドの<br>投資顧問会社 | ティー・ロウ・プライス・アソシエイツ、インク<br>ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド<br>ティー・ロウ・プライス・香港・リミテッド<br>ティー・ロウ・プライス・シンガポール・プライベート・リミテッド<br>ティー・ロウ・プライス・オーストラリア・リミテッド<br><br>ティー・ロウ・プライス（カナダ）、インク <sup>*</sup><br>*マザーファンドのみ |

### (D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額に税抜年0.692%の率を乗じて得た額とします。なお、マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、ファンドの信託報酬中の委託会社が受ける報酬から支払われます。

上記のほか、ファンドの組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等を信託財産から支払います。その他、信託財産に係る監査費用等として信託財産の純資産総額に対して税抜年0.1%を上限として信託財産から支払います。

### (E)投資方針等

#### (1)投資対象

日本を除く世界各国の株式（エマージング・マーケットも含みます。）を実質的な投資対象とします。

## (2)投資態度

マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を除く世界各国の株式（エマージング・マーケットも含みます）の中で、成長性が高いと判断される企業の株式を中心に投資を行います。

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、上場会社の普通株式および優先株、新株予約権付社債、米国預託証券(ADR)、欧州預託証券(EDR)、グローバル預託証券(GDR)といった株関連の証券へ投資をします。

マザーファンド受益証券における銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティール・ロウ・ブライスのアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。

\*委託会社およびその関連会社をいいます。

実質組入外貨建資産については、原則として対円への為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。なお、為替ヘッジが困難な一部の通貨については、当該通貨との相関等を勘案し、他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。

市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記のような運用ができない場合があります。

## (3)主な投資制限

株式への実質投資割合には、制限を設けません。

外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。

デリバティブの実質利用はヘッジ目的に限定せず、効率的運用のために用いることがあります。

外国為替予約取引の実質利用は為替変動リスクを回避するために行うことができます。

投資信託証券（マザーファンド受益証券および上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以下とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会の規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

## ABグローバル・コア・エクイティ・ファンド

### (A)ファンドの特色

ファンドは、主に日本を除く世界各国の金融商品取引所に上場している企業の株式(DR(預託証券))を含みます。)に分散投資することで、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。

ファンドのベンチマークは、MSCI-KOKUSAI インデックス(米ドル・ベース)です。

ファンドは、円建てオープン・エンド型の英領ケイマン諸島籍契約型外国籍投資信託です。

(B)信託期間

無期限(2015年4月9日設定)

(C)ファンドの関係法人

| 関係              | 名称                    |
|-----------------|-----------------------|
| 投資顧問会社          | アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー  |
| 受託会社            | グローバル・ファンズ・トラスト・カンパニー |
| 保管受託銀行、管理事務代行会社 | ノムラ・バンク（ルクセンブルグ）エス・エー |

**(D)管理報酬等**

信託報酬は、純資産総額に年0.85%の率を乗じて得た額とします。

上記のほか、ファンドは、信託財産に関する租税、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託財産の監査費用、外貨建資産の保管等に要する費用、弁護士報酬等を負担します。また、ファンドの設立に係る費用はファンドが負担し、原則として1年を超えない期間にわたり償却します。

**(E)投資方針等****(1)投資対象**

日本を除く世界各国の金融商品取引所に上場している株式(DR(預託証書)を含みます。)

**(2)投資態度**

主に日本を除く世界各国の金融商品取引所に上場している株式(DR(預託証書)を含みます。)に分散投資することで、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。

外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

対円の為替変動リスクを低減するため、原則として為替ヘッジを行います。為替ヘッジについては、ファンドのポートフォリオの通貨配分に関わらず、ベンチマークの通貨配分(月次見直し)に基づいて行います。ただし、有価証券売買、市場環境、投資顧問会社が定める特定通貨の代替ヘッジなどに起因して、ベンチマークを構成する各通貨へのエクスポージャーが完全に円ヘッジされない場合があります。

**(3)主な投資制限**

有価証券の空売りは行いません。

投資信託証券(上場投資信託等は除く)への投資割合は、ファンドの純資産総額の5%を超えないものとします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーのファンドの純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、投資顧問会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

流動性の低い資産への投資割合は、ファンドの純資産総額の15%を超えないものとします。ただし、私募株式、非上場株式、その他の流動性の低い資産に投資するにあたって、価格の透明性を確保する方法が取られている場合にはこの限りではありません。

投資顧問会社が運用を行う投資ファンドの全体において、一発行会社の発行する株式(投資法人が発行する投資証券を含む。)について、発行済総株式数の50%を超えて当該発行会社の株式に投資しません。

借入総額がファンドの純資産総額の10%を超えることになる借入れは行いません。ただし、合併等の非常事態または緊急事態の場合には、一時的に10%の制限を超過することができます。

## ノムラ・ワールド（除く日本）エクイティ・ファンドF

### (A)ファンドの特色

ファンドは、主として日本を除く世界各国の上場株式に実質的に投資を行うことにより、ベンチマーク指数を上回る収益の確保を目指します。ファンドは、ケイマン諸島籍契約型外国投資信託(円建て)です。

円以外の外貨建て通貨については、対円での為替ヘッジを実質的に行うことを基本とします。ベンチマークは、MSCIコクサイ・インデックス(円ヘッジベース)です。

### (B)信託期間

無期限(2015年4月9日設定)

### (C)ファンドの関係法人

|                    | 名称                                |
|--------------------|-----------------------------------|
| 投資顧問会社             | 野村アセットマネジメント株式会社                  |
| 副投資顧問会社            | ホチキス・アンド・ワイリー・キャピタル・マネジメント・エルエルシー |
| 受託会社               | グローバル・ファンズ・トラスト・カンパニー             |
| 保管受託銀行<br>管理事務代行会社 | ノムラ・バンク（ルクセンブルグ）エス・エー             |

### (D)管理報酬等

信託報酬の総額は、信託財産の純資産総額の0.60%(年率)とします。

申込手数料は発生しません。

ファンドは、信託財産に関する租税、組入有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する費用および信託財産の監査に要する費用、外貨建資産の保管などに要する費用、借入金の利息および立替金の利息等を負担する場合があります。

**(E)投資方針等****(1)投資対象**

日本を除く先進国の株式を実質的な主要投資対象とします。

**(2)投資態度**

独自のリサーチに基づき、将来のキャッシュフローの割引現在価値に対して割安な銘柄に投資します。

株式の実質組入比率は、原則として高位を基本とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

ホチキス・アンド・ワイリー・キャピタル・マネジメント・エルエルシーに運用の権限の一部を委託します。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

**(3)主な投資制限**

株式への実質投資割合には制限を設けません。

外貨建て資産への実質投資割合には制限を設けません。

投資信託証券への実質投資割合は信託財産の純資産総額の5%以内とします。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

**AB SICAV - セレクトUSエクイティ・ポートフォリオ クラス S1シェアーズ（円建て円ヘッジ）****(A)ファンドの特色**

ファンドは、様々なマーケット・サイクルを通じてリスク調整後リターンを最大化し、米国株式市場全般と比較して良好なリターンの獲得を目指します。

ファンドの参照ベンチマークは、S&P500インデックスです。

**(B)信託期間**

無期限（ポートフォリオ設定日：2011年8月23日）

**(C)ファンドの関係法人**

| 関係     | 名称                                  |
|--------|-------------------------------------|
| 投資顧問会社 | アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー                |
| 管理会社   | アライアンス・バーンスタイン・ルクセンブルグ・エス・エイ・アール・エル |

|                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 保管銀行<br>管理事務代行 | ブラウン・ブラザーズ・ハリマン（ルクセンブルグ）エス・シー・エイ |
|----------------|----------------------------------|

#### (D)管理報酬等

純資産総額に以下の率（年率）を乗じた額

運用管理報酬：日々の純資産総額の平均の年率0.75%

管理会社報酬：50,000米ドルまたは日々の平均純資産総額の年率0.01%のうちいずれか低い金額

その他費用：保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ファンドの資産および収益に課せられる税金、組入有価証券の売買時の売買手数料、監査費用、弁護士費用等、ファンドの運営に必要な各種経費がかかります。

投資者が負担する報酬・費用の上限率

本書の日付現在、投資者が一会計年度に負担する報酬および費用の総額は、クラスS1シェアーズ（円建て）／（円建て円ヘッジ）が帰属するファンドの平均純資産総額に対する年率0.90%を上限とし、その上限率を超える報酬および費用（ ）は管理会社が自発的に負担します。ただし、管理会社がかかる負担をしない場合には、その旨を事前に販売会社に通知します。

ルクセンブルグ年次税以外の税金、仲介手数料および借入利息は含まれません。

上記費用等の合計額については、申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

#### (E)投資方針等

##### (1)主要投資対象

米国の株式

##### (2)投資態度

ファンドは、主に米国の金融商品取引所で取引されている株式等に投資します。なお、限定された範囲内で、米国外の金融商品取引所に上場されている株式に投資することもできます。

米国等の転換優先株式、オプション、新株引受権証券、ETF等に投資することがあります。

ファンドは、主として中型および大型の企業の株式に投資しますが、小型の株式にも投資をすることがあります。

基軸通貨（米ドル）と表示通貨（日本円）間の為替レートの変動による影響を低減するために、為替ヘッジを行います。

##### (3)主な投資制限

米国株式への投資割合は、原則として純資産総額の80%以上とします。

流動性の低い資産への投資は、純資産総額の10%を超えないものとします。

ファンドの借り入れ総額は、純資産総額の10%を上限とします。

■ベンチマークについて■

東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下「(株)東京証券取引所」という。)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は(株)東京証券取引所が有しています。(株)東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行なう権利を有しています。

MSCI-KOKUSAI指数、MSCI ヨーロッパ インデックス、MSCIパシフィック・フリー・インデックス(日本を除く)は、MSCIが開発した指数で、当該指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

S&P500株価指数(S&P500種株価指数)は、スタンダード&プアーズが公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されております。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シーに帰属しております。

■指定投資信託証券の委託会社等について■

指定投資信託証券の委託会社等の沿革は、以下の通りです。

**野村アセットマネジメント株式会社**

|             |                                                   |
|-------------|---------------------------------------------------|
| 1959年12月 1日 | 野村證券投資信託委託株式会社として設立                               |
| 1997年10月 1日 | 投資顧問会社である野村投資顧問株式会社と合併して野村アセット・マネジメント投信株式会社に商号を変更 |
| 2000年11月 1日 | 野村アセットマネジメント株式会社に商号を変更                            |

**アムンディ・ジャパン株式会社**

|             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 1971年11月22日 | 山一投資カウンセリング株式会社設立                |
| 1980年1月 4日  | 山一投資カウンセリング株式会社から山一投資顧問株式会社へ社名変更 |

|             |                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------|
| 1998年4月 1日  | 山一投資顧問株式会社からエスジー山一アセットマネジメント株式会社へ社名変更                 |
| 1998年11月30日 | 証券投資信託委託会社の免許取得                                       |
| 2004年8月 1日  | りそなアセットマネジメント株式会社と合併し、ソシエテ ジェネラル アセット マネジメント株式会社へ社名変更 |
| 2007年9月30日  | 金融商品取引法の施行に伴い同法の規定に基づく金融商品取引業者の登録を行う                  |
| 2010年7月1日   | クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社と合併し、アムンディ・ジャパン株式会社へ社名変更     |

### シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

|             |                                                                 |
|-------------|-----------------------------------------------------------------|
| 1985年12月10日 | 株式会社シュローダー・インベストメント・マネージメント設立                                   |
| 1991年12月20日 | シュローダー投信株式会社設立                                                  |
| 1997年4月1日   | シュローダー投信株式会社と株式会社シュローダー・インベストメント・マネージメントが合併し、シュローダー投信投資顧問株式会社設立 |
| 2007年4月3日   | シュローダー証券投信投資顧問株式会社に商号を変更                                        |
| 2012年6月29日  | シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社に商号を変更                                |

### ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

|           |                                                                                                    |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1996年2月6日 | 会社設立                                                                                               |
| 2002年4月1日 | ゴールドマン・サックス・アセット・マネージメント・ジャパン・リミテッドの営業の全部を譲受け、商号をゴールドマン・サックス投信株式会社からゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社に変更 |

### MFSインベストメント・マネジメント株式会社

|            |                                           |
|------------|-------------------------------------------|
| 1998年5月12日 | マサチューセッツ・インベストメント・マネジメント株式会社設立            |
| 1998年6月30日 | 投資顧問業の登録                                  |
| 1999年2月18日 | 投資一任契約に係る業務の認可                            |
| 1999年12月9日 | 証券投資信託委託業の認可                              |
| 2000年8月 1日 | エムエフエス・インベストメント・マネジメント株式会社に商号変更           |
| 2007年9月30日 | 金融商品取引法施行に伴う金融商品取引業（投資助言・代理業、投資運用業）のみなし登録 |
| 2011年6月22日 | MFSインベストメント・マネジメント株式会社に商号変更               |

**スパークス・アセット・マネジメント株式会社**

|          |                                                                                                                 |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2006年4月  | 持株会社への移行に伴い、スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社の子会社として、スパークス分割準備株式会社を設立                                                     |
| 2006年10月 | 商号をスパークス・アセット・マネジメント株式会社に変更<br>投資顧問業及び投資一任契約に係る業務並びに投資信託委託業をスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社（現スパークス・グループ株式会社）より会社分割により承継 |
| 2007年9月  | 金融商品取引業者として登録<br>登録番号：関東財務局長（金商）第346号                                                                           |
| 2010年7月  | スパークス証券株式会社との合併に伴い、第一種金融商品取引業務を開始                                                                               |

**SOMPOアセットマネジメント株式会社**

|             |                                                      |
|-------------|------------------------------------------------------|
| 1986年 2月25日 | 安田火災投資顧問株式会社設立                                       |
| 1987年 2月20日 | 投資顧問業の登録                                             |
| 1987年 9月9日  | 投資一任業務の認可取得                                          |
| 1991年 6月1日  | プリンソン・パートナーズ投資顧問株式会社と合併し、安田火災プリンソン投資顧問株式会社に商号変更      |
| 1998年 1月1日  | 安田火災グローバル・アセット・マネジメント株式会社に商号変更                       |
| 1998年 3月3日  | 安田火災グローバル投信投資顧問株式会社に商号変更                             |
| 1998年 3月31日 | 証券投資信託委託業の免許取得                                       |
| 2002年 7月1日  | 損保ジャパン・アセットマネジメント株式会社に商号変更                           |
| 2007年 9月30日 | 金融商品取引業者として登録                                        |
| 2010年 10月1日 | ゼスト・アセットマネジメント株式会社と合併し、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社に商号変更 |
| 2020年4月1日   | SOMPOアセットマネジメント株式会社に商号変更                             |

**ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社**

|            |                                            |
|------------|--------------------------------------------|
| 1982年8月4日  | ロウ・プライス・フレミング・インターナショナルが駐在員事務所（リサーチ）を東京に開設 |
| 2003年3月20日 | T. ロウ・プライス・グローバル投資顧問 東京支店開設、投資助言登録         |
| 2011年1月1日  | T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド 東京支店に社名変更       |
| 2017年3月1日  | ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド 東京支店に商号変更      |
| 2018年4月1日  | ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社（日本法人）へ事業譲渡、営業開始       |

**アセットマネジメントOne株式会社**

|            |                                                                                               |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1985年7月1日  | 会社設立                                                                                          |
| 1998年3月31日 | 「証券投資信託法」に基づく証券投資信託の委託会社の免許取得                                                                 |
| 1998年12月1日 | 証券投資信託法の改正に伴う証券投資信託委託業のみなし認可                                                                  |
| 1999年10月1日 | 第一ライフ投信投資顧問株式会社を存続会社として興銀エヌダブリュ・アセットマネジメント株式会社および日本興業投信株式会社と合併し、社名を興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社とする。 |
| 2008年1月1日  | 「興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社」から「DIA Mアセットマネジメント株式会社」に商号変更                                          |
| 2016年10月1日 | DIA Mアセットマネジメント株式会社、みずほ投信投資顧問株式会社、新光投信株式会社、みずほ信託銀行株式会社(資産運用部門)が統合し、商号をアセットマネジメントOne株式会社に変更    |

**コムジェスト・アセットマネジメント株式会社**

|          |                             |
|----------|-----------------------------|
| 2007年3月  | 日本コムジェスト株式会社設立              |
| 2007年12月 | 投資運用業および第二種金融商品取引業の登録       |
| 2009年5月  | 投資助言・代理業の登録                 |
| 2012年2月  | 投資一任業を追加登録                  |
| 2016年8月  | 社名をコムジェスト・アセットマネジメント株式会社に変更 |

**三菱UFJ国際投信株式会社**

|          |                                                    |
|----------|----------------------------------------------------|
| 1997年5月  | 東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始                       |
| 2004年10月 | 東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更 |
| 2005年10月 | 三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更  |
| 2015年7月  | 三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱UFJ国際投信株式会社に変更    |

**グローバル・ファンズ・トラスト・カンパニー**

1998年                      会社設立

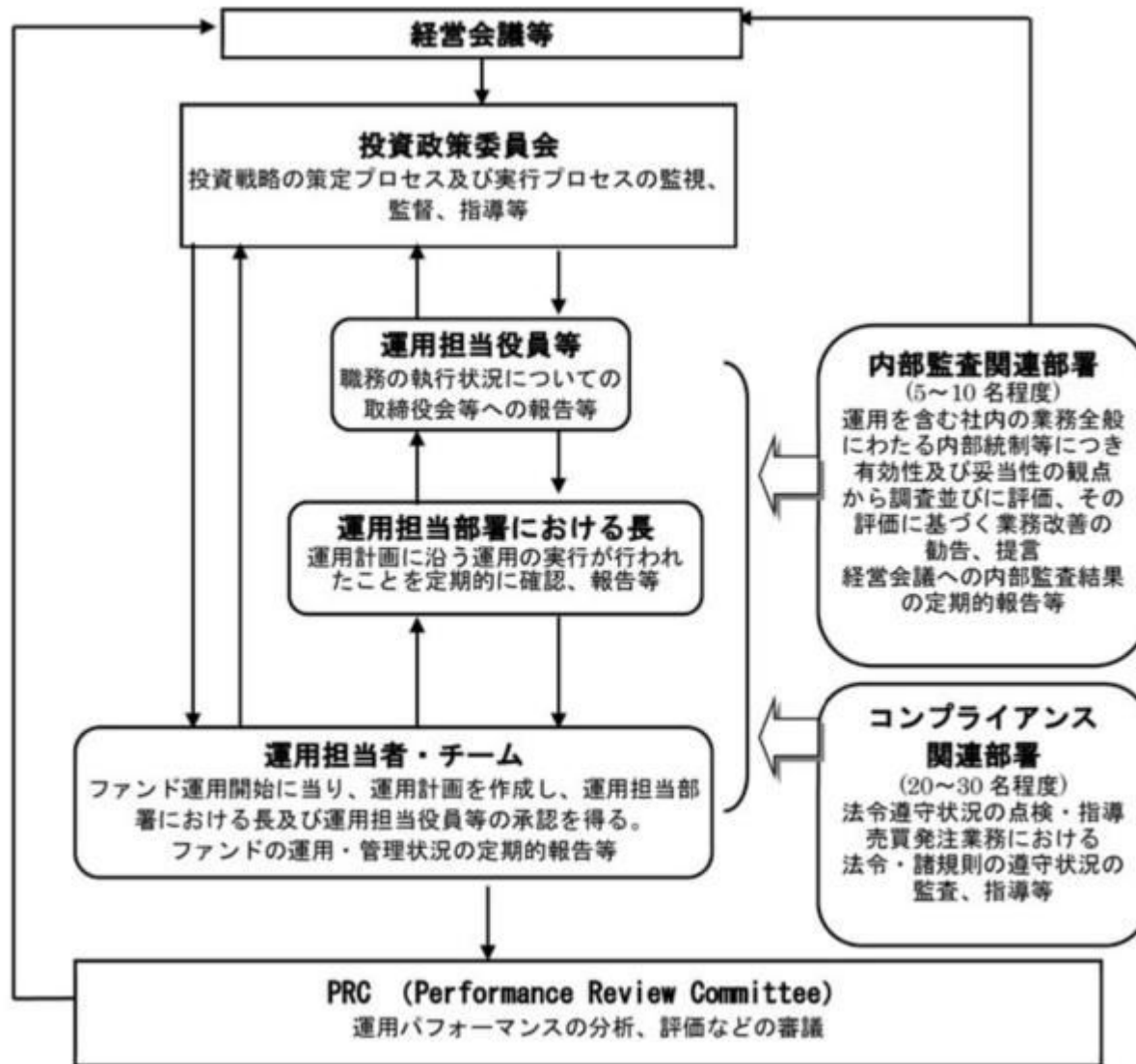
**アライアンス・バーンスタイン・ルクセンブルグ・エス・エイ・アール・エル**

|            |                                                                      |
|------------|----------------------------------------------------------------------|
| 1990年7月31日 | アライアンス・キャピタル（ルクセンブルグ）エス・エイを設立                                        |
| 2006年7月31日 | 社名を「アライアンス・バーンスタイン・ルクセンブルグ・エス・エイ」に変更                                 |
| 2011年4月11日 | 会社形態を株式会社から非公開有限責任会社に変更し、社名を「アライアンス・バーンスタイン・ルクセンブルグ・エス・エイ・アール・エル」に変更 |

（ 3 ）運用体制

< 更新後 >

ファンドを含む委託会社における投資信託の内部管理及び意思決定を監督する組織等は以下の通りです。



委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制等

当社では、「受託会社」または受託会社の再信託先に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っています。また、受託業務の内部統制の有効性についての監査人による報告書を、受託会社より受け取っております。

運用の外部委託を行う場合、「運用の外部委託先」に対しては、外部委託先が行った日々の約定について、投資ガイドラインに沿ったものであるかを確認しています。また、コンプライアンスレポートの提出を義務付け、定期的に管理状況に関する報告を受けています。さらに、外部委託先の管理体制、コンプライアンス体制等について調査ならびに評価を行い、定期的に商品に関する委員会に報告しています。

ファンドの運用体制等は今後変更となる場合があります。

### 3 投資リスク

#### < 更新後 >

#### 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、投資を行なっている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

したがって、ファンドにおいて、投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

#### [ 株価変動リスク ]

ファンドは実質的に株式に投資を行ないますので、株価変動の影響を受けます。

#### [ 為替変動リスク ]

ファンドが投資対象とする投資信託証券のうち世界の株式に実質的に投資する投資信託証券は、実質組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とするもの、または原則として実質組入外貨建資産の通貨配分の如何に関わらず、当該投資信託証券または当該投資信託証券が組入れるマザーファンドのベンチマークの通貨配分をベースに対円で為替ヘッジを行なうことを基本とするもの等に限りますが、為替変動リスクを完全に排除できるわけではありません。また、円金利がヘッジ対象通貨の金利より低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかるため、基準価額の変動要因となります。

一部の通貨においては為替ヘッジの手段がない等の理由から為替ヘッジを行なわない場合や、一部の投資信託証券においては実際のポートフォリオの通貨配分と対円で為替ヘッジの通貨配分が異なる場合

があり、それらの場合は為替変動の影響を直接的に受けることになります。

基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

#### その他の留意点

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

資金動向、市況動向等によっては、また、不慮の出来事等が起きた場合には、投資方針に沿った運用ができない場合があります。

ファンドが実質的に組み入れる有価証券の発行体において、利払いや償還金の支払いが滞る可能性があります。

有価証券への投資等ファンドにかかる取引にあたっては、取引の相手方の倒産等により契約が不履行になる可能性があります。

ファンドのベンチマークは、市場の構造変化等によっては今後見直す場合があります。また、ベンチマークに対して一定の投資成果をあげることが保証するものではありません。

ファンドが投資する投資信託証券が投資対象とする各マザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

ファンドは、投資対象とする投資信託証券への投資を通じて実質的に投資する資産クラス別の比率が、投資方針に記載の資産クラス別の基準配分比率（純資産に対する比率）となるよう意識して投資信託証券への配分を行ないますが、常時、基準配分比率近辺に維持されていることを保証するものではありません。

また、ファンドは将来的に、基準配分比率を変更する場合があります。

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行なわれており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響を受け、当該金融取引を行なうための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間における

ファンドの収益率を示唆するものではありません。

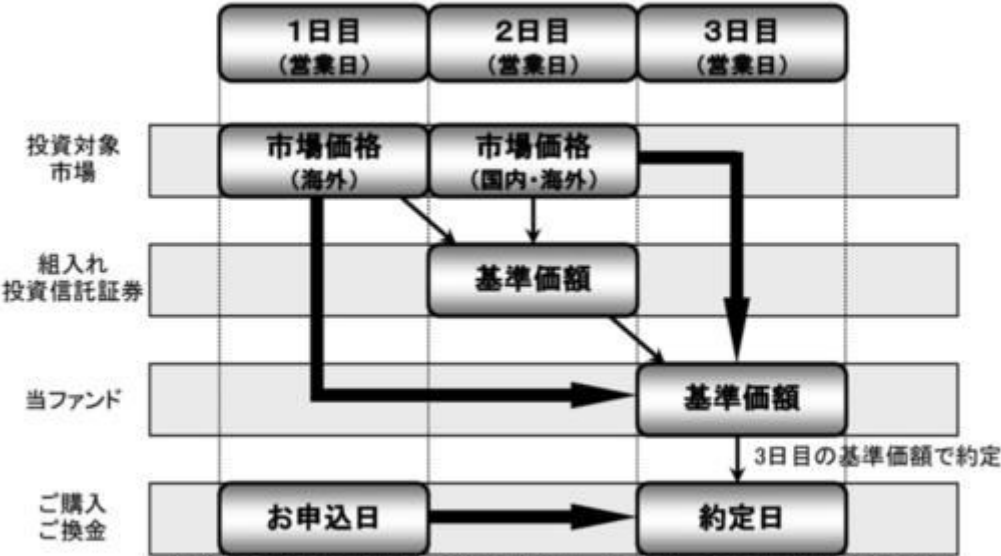
投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本）の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。

分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

ファンドが投資対象とする投資信託証券の販売会社は、一部の外国籍投資信託証券を除き、委託会社（運用の権限委託先を含みます。）の利害関係人等（当該委託会社の総株主の議決権の過半数を所有していることその他の当該委託会社と密接な関係を有するものとして政令で定めるものをいいます。）である野村信託銀行株式会社またはノムラ・バンク（ルクセンブルグ）エス・エーとなっております。したがって、ファンドにおいて、委託会社（運用の権限委託先を含みます。）が当該投資信託証券の買付けまたは売付けを受託会社に指図する場合、当該買付けまたは売付けの発注は当該利害関係人等に対して行なわれます。なお、ファンドが投資対象とする全ての指定投資信託証券の申込手数料は無手数料となっております。

ファンドの基準価額は、原則として組入投資信託証券の前営業日の基準価額をもって毎営業日計算されます。したがって、ファンドの基準価額において、組入投資信託証券の投資対象資産等の値動きは、下図の通り一般的な投資信託における場合と比較して1営業日遅れて反映される場合がありますので、ご注意ください。

＜基準価額の算出イメージ図＞



約定日(3日目)の基準価額(約定価額)は、原則として、海外市場は組入投資信託証券によってお申込日(1日目)またはお申込日の翌営業日(2日目)、国内市場はお申込日の翌営業日(2日目)の市場価格を反映したものです。  
なお、国内外の祝日等は考慮しておりません。

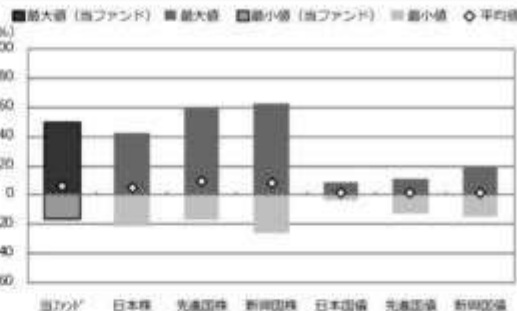
＜更新後＞

## ■ リスクの定量的比較 (2016年4月末～2021年3月末：月次)

ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



|        | 当ファンド | 日本株   | 先進国株  | 新興国株  | 日本国債 | 先進国債  | 新興国債  |
|--------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 最大値(%) | 50.2  | 42.1  | 59.8  | 62.7  | 9.3  | 11.4  | 19.3  |
| 最小値(%) | △16.9 | △22.0 | △17.5 | △26.3 | △4.0 | △12.3 | △15.0 |
| 平均値(%) | 6.4   | 5.2   | 8.9   | 7.7   | 1.1  | 1.3   | 1.9   |

- \* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2016年4月末を10,000として指数化しております。
- \* 年間騰落率は、2016年4月から2021年3月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

- \* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- \* 2016年4月から2021年3月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- \* 決算日に対応した数値とは異なります。
- \* 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

### <代表的な資産クラスの指数>

- 日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
- 先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）
- 新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
- 日本国債：NOMURA-BPI 国債
- 先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし、円ベース）
- 新興国債：JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

### ■ 代表的な資産クラスの指数の著作権等について ■

- 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）・・・東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、株式会社東京証券取引所（東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所に帰属しています。なお、本商品は、東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を負いません。
- MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）、MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）・・・MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）、MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は、MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- NOMURA-BPI 国債・・・NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。
- FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし、円ベース）・・・FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。
- JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）・・・「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）」（ここでは「指数」とよびます）についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価格や価格を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイス等を法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は種々なものと考えられますが、JP Morgan Chase & Co. 及びその子会社（以下、JPM）がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

#### 4 手数料等及び税金

##### （３）信託報酬等

###### < 更新後 >

信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年0.77%（税抜年0.70%）の率を乗じて得た額とし、その配分については純資産総額の残高に応じて次の通り（税抜）とします。

| < 純資産総額 >  | < 委託会社 > | < 販売会社 > | < 受託会社 > |
|------------|----------|----------|----------|
| 500億円以下の部分 | 年0.27%   | 年0.40%   | 年0.03%   |
| 500億円超の部分  | 年0.28%   | 年0.40%   | 年0.02%   |

ファンドの信託報酬は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。

この他にファンドが投資対象とする投資信託証券に関しても信託報酬等がかかります。

国内籍投資信託の場合、監査費用等の費用も別途がかかります。また、外国籍投資信託の場合、ファンドによっては、受託会社、保管受託銀行、管理事務代行会社の報酬、設立費用、監査費用等の費用も別途かかる場合、報酬額等に年間の最低金額が定められている場合があります。なお、いずれも申込手数料はかかりません。

ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等の詳細については「（参考）指定投資信託証券について」をご覧ください。

なお、ファンドの信託報酬にファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を加えた、受益者が実質的に負担する信託報酬率について試算した概算値は以下の通りです。

ただし、この値はあくまでも実質的な信託報酬率の目安であり、ファンドの実際の投資信託証券の組入れ状況によっては、実質的な信託報酬率は変動します。

|                      |
|----------------------|
| 実質的な信託報酬率(税込・年率)の概算値 |
|----------------------|

|                 |
|-----------------|
| 1.55% ± 0.15%程度 |
|-----------------|

\* 上記の実質的な信託報酬率の概算値は、2021年5月20日現在のものであり、指定投資信託証券の変更等により今後変更となる場合があります。

#### 支払先の役務の内容

| < 委託会社 >                                   | < 販売会社 >                               | < 受託会社 >                    |
|--------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------|
| ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等 | 口座内でのファンドの管理および事務手続き、購入後の情報提供、各種書類の送付等 | ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等 |

#### （５）課税上の取扱い

##### < 更新後 >

課税上は、株式投資信託として取扱われます。

受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税、復興特別所得税および地方税がかかりません。

なお、上記以外の受益者(法人)の場合の課税の取扱いは下記の通りです。

分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の個別元本超過額について

ては、15.315%(国税(所得税及び復興特別所得税) 15.315%)の税率で源泉徴収が行なわれます。

なお、地方税の源泉徴収はありません。

源泉税は所有期間に応じて法人税額から控除

税金の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

##### ■ 個別元本について ■

追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本をいいます。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合や受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った

場合などには、当該受益者の個別元本が変わりますので、詳しくは販売会社へお問い合わせください。

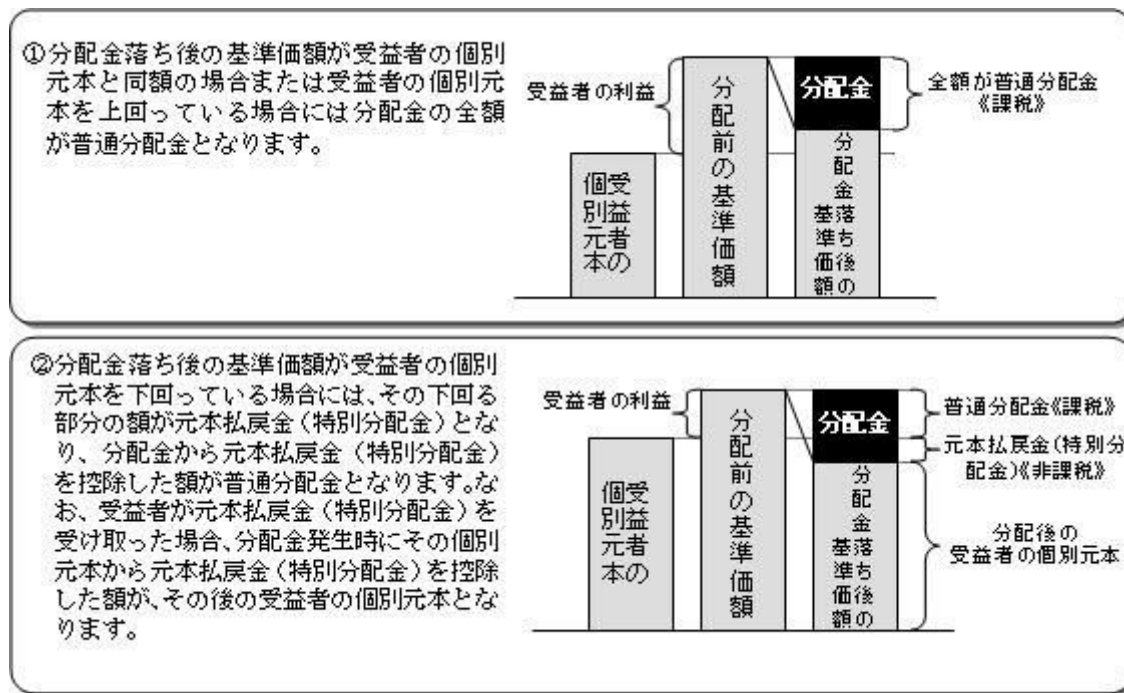
#### ■換金（解約）時および償還時の課税について■

換金（解約）時および償還時の個別元本超過額が課税対象となります。

なお、買取りによるご換金について、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

#### ■分配金の課税について■

分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）があります。



上図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

税法が改正された場合等は、上記「(5)課税上の取扱い」の内容（2021年3月末現在）が変更になる場合があります。

## 5 運用状況

以下は2021年3月31日現在の運用状況であります。

また、投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

### （１）投資状況

| 資産の種類              | 国／地域    | 時価合計（円）       | 投資比率（％） |
|--------------------|---------|---------------|---------|
| 投資信託受益証券           | 日本      | 1,212,421,979 | 90.90   |
|                    | ルクセンブルグ | 20,896,675    | 1.56    |
|                    | ケイマン諸島  | 89,466,326    | 6.70    |
|                    | 小計      | 1,322,784,980 | 99.17   |
| 現金・預金・その他資産（負債控除後） | —       | 10,943,523    | 0.82    |
| 合計（純資産総額）          |         | 1,333,728,503 | 100.00  |

### （２）投資資産

#### 投資有価証券の主要銘柄

| 順位 | 国／地域 | 種類       | 銘柄名                                 | 数量     | 簿価<br>単価<br>（円） | 簿価<br>金額<br>（円） | 評価<br>単価<br>（円） | 評価<br>金額<br>（円） | 投資<br>比率<br>（％） |
|----|------|----------|-------------------------------------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1  | 日本   | 投資信託受益証券 | 野村DFA海外株式バリュートラッキングファンドF（適格機関投資家専用） | 15,224 | 10,680          | 162,597,853     | 11,588          | 176,415,712     | 13.22           |
| 2  | 日本   | 投資信託受益証券 | ストラテジック・バリュートラッキング・オープンF（適格機関投資家専用） | 7,949  | 14,681          | 116,703,504     | 18,895          | 150,196,355     | 11.26           |
| 3  | 日本   | 投資信託受益証券 | シュローダー日本ファンドF（適格機関投資家専用）            | 8,523  | 11,409          | 97,239,929      | 14,502          | 123,600,546     | 9.26            |
| 4  | 日本   | 投資信託受益証券 | ティー・ロウ・プライス 海外株式ファンドF（適格機関投資家専用）    | 5,992  | 14,104          | 84,512,694      | 16,497          | 98,850,024      | 7.41            |

|    |         |          |                                                         |       |        |            |        |            |      |
|----|---------|----------|---------------------------------------------------------|-------|--------|------------|--------|------------|------|
| 5  | 日本      | 投資信託受益証券 | One国内株オープンF（FOFs用）<br>（適格機関投資家専用）                       | 6,707 | 10,804 | 72,467,726 | 13,985 | 93,797,395 | 7.03 |
| 6  | 日本      | 投資信託受益証券 | SJAMバリュー日本株F（適格機関投資家専用）                                 | 6,982 | 9,941  | 69,412,988 | 12,608 | 88,029,056 | 6.60 |
| 7  | 日本      | 投資信託受益証券 | グローバル・エクイティ（除く日本）・ファンドF（適格機関投資家専用）                      | 2,230 | 37,239 | 83,044,537 | 36,943 | 82,382,890 | 6.17 |
| 8  | 日本      | 投資信託受益証券 | ノムラ・ジャパン・オープンF（適格機関投資家専用）                               | 3,250 | 20,232 | 65,754,000 | 24,886 | 80,879,500 | 6.06 |
| 9  | 日本      | 投資信託受益証券 | 日本フォーカス・グロースF（適格機関投資家専用）                                | 5,058 | 12,080 | 61,103,194 | 15,060 | 76,173,480 | 5.71 |
| 10 | 日本      | 投資信託受益証券 | スパークス・厳選投資・日本株ファンドF（適格機関投資家専用）                          | 3,465 | 16,320 | 56,548,800 | 19,701 | 68,263,965 | 5.11 |
| 11 | 日本      | 投資信託受益証券 | コムジェスト ジャパンエクイティファンドF（適格機関投資家専用）                        | 3,951 | 12,058 | 47,641,158 | 14,852 | 58,680,252 | 4.39 |
| 12 | ケイマン諸島  | 投資信託受益証券 | A Bグローバル・コア・エクイティ・ファンドF                                 | 3,244 | 13,796 | 44,754,946 | 16,144 | 52,371,136 | 3.92 |
| 13 | 日本      | 投資信託受益証券 | アメリカン・オープンF（適格機関投資家専用）                                  | 1,345 | 30,895 | 41,554,729 | 34,875 | 46,906,875 | 3.51 |
| 14 | ケイマン諸島  | 投資信託受益証券 | ノムラ・ワールド（除く日本）エクイティ・ファンドF                               | 2,629 | 10,192 | 26,796,156 | 14,110 | 37,095,190 | 2.78 |
| 15 | ルクセンブルグ | 投資信託受益証券 | AB SICAV - セレクトUSエクイティ・ポートフォリオ クラス S1<br>シェアーズ（円建て円ヘッジ） | 1,517 | 11,896 | 18,046,467 | 13,775 | 20,896,675 | 1.56 |
| 16 | 日本      | 投資信託受益証券 | MFS欧州株ファンドF（適格機関投資家専用）                                  | 858   | 19,283 | 16,545,508 | 21,221 | 18,207,618 | 1.36 |
| 17 | 日本      | 投資信託受益証券 | アムンディ・ターゲット・ジャパン・ファンドF（適格機関投資家専用）                       | 475   | 33,000 | 15,675,360 | 37,784 | 17,947,400 | 1.34 |
| 18 | 日本      | 投資信託受益証券 | ノムラ・T&D J Flag日本株 F（適格機関投資家専用）                          | 857   | 16,427 | 14,078,336 | 19,830 | 16,994,310 | 1.27 |
| 19 | 日本      | 投資信託受益証券 | シュローダー・アジア・パシフィック株式ファンドF（適格機関投資家専用）                     | 203   | 23,629 | 4,796,687  | 27,281 | 5,538,043  | 0.41 |
| 20 | 日本      | 投資信託受益証券 | イーストスプリング・ジャパン・フォーカス・バリュー株式ファンドF（適格機関投資家専用）             | 337   | 8,250  | 2,780,250  | 12,122 | 4,085,114  | 0.30 |
| 21 | 日本      | 投資信託受益証券 | 野村RAFI(R)日本株投信F（適格機関投資家専用）                              | 155   | 19,710 | 3,055,050  | 25,634 | 3,973,270  | 0.29 |
| 22 | 日本      | 投資信託受益証券 | 野村日本小型株ファンドF（適格機関投資家専用）                                 | 39    | 32,530 | 1,268,701  | 38,466 | 1,500,174  | 0.11 |

## 種類別及び業種別投資比率

| 種類       | 投資比率(%) |
|----------|---------|
| 投資信託受益証券 | 99.17   |
| 合 計      | 99.17   |

#### 投資不動産物件

該当事項はありません。

#### その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

### （３）運用実績

#### 純資産の推移

2021年3月末日及び同日前1年以内における各月末並びに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

|         |               | 純資産総額（百万円） |       | 1口当たり純資産額(円) |        |
|---------|---------------|------------|-------|--------------|--------|
|         |               | （分配落）      | （分配付） | （分配落）        | （分配付）  |
| 第10計算期間 | (2011年 8月29日) | 609        | 609   | 0.8313       | 0.8313 |
| 第11計算期間 | (2012年 8月29日) | 662        | 662   | 0.8829       | 0.8829 |
| 第12計算期間 | (2013年 8月29日) | 894        | 895   | 1.2204       | 1.2209 |
| 第13計算期間 | (2014年 8月29日) | 1,020      | 1,020 | 1.4310       | 1.4315 |
| 第14計算期間 | (2015年 8月31日) | 1,070      | 1,071 | 1.6126       | 1.6131 |
| 第15計算期間 | (2016年 8月29日) | 1,119      | 1,120 | 1.4857       | 1.4862 |
| 第16計算期間 | (2017年 8月29日) | 1,295      | 1,295 | 1.8070       | 1.8075 |
| 第17計算期間 | (2018年 8月29日) | 1,403      | 1,403 | 2.0185       | 2.0190 |
| 第18計算期間 | (2019年 8月29日) | 1,160      | 1,160 | 1.7854       | 1.7859 |
| 第19計算期間 | (2020年 8月31日) | 1,150      | 1,150 | 2.0493       | 2.0498 |

|            |       |   |        |   |
|------------|-------|---|--------|---|
| 2020年 3月末日 | 935   | — | 1.6573 | — |
| 4月末日       | 997   | — | 1.7485 | — |
| 5月末日       | 1,094 | — | 1.8970 | — |
| 6月末日       | 1,094 | — | 1.8995 | — |
| 7月末日       | 1,104 | — | 1.9627 | — |
| 8月末日       | 1,150 | — | 2.0493 | — |
| 9月末日       | 1,171 | — | 2.0742 | — |
| 10月末日      | 1,148 | — | 2.0408 | — |
| 11月末日      | 1,231 | — | 2.2511 | — |
| 12月末日      | 1,233 | — | 2.2942 | — |
| 2021年 1月末日 | 1,260 | — | 2.3121 | — |
| 2月末日       | 1,311 | — | 2.4276 | — |
| 3月末日       | 1,333 | — | 2.4891 | — |

## 分配の推移

|         | 計算期間                    | 1口当たりの分配金 |
|---------|-------------------------|-----------|
| 第10計算期間 | 2010年 8月31日～2011年 8月29日 | 0.0000円   |
| 第11計算期間 | 2011年 8月30日～2012年 8月29日 | 0.0000円   |
| 第12計算期間 | 2012年 8月30日～2013年 8月29日 | 0.0005円   |
| 第13計算期間 | 2013年 8月30日～2014年 8月29日 | 0.0005円   |
| 第14計算期間 | 2014年 8月30日～2015年 8月31日 | 0.0005円   |
| 第15計算期間 | 2015年 9月 1日～2016年 8月29日 | 0.0005円   |
| 第16計算期間 | 2016年 8月30日～2017年 8月29日 | 0.0005円   |
| 第17計算期間 | 2017年 8月30日～2018年 8月29日 | 0.0005円   |
| 第18計算期間 | 2018年 8月30日～2019年 8月29日 | 0.0005円   |
| 第19計算期間 | 2019年 8月30日～2020年 8月31日 | 0.0005円   |

## 収益率の推移

|           | 計算期間                    | 収益率   |
|-----------|-------------------------|-------|
| 第10計算期間   | 2010年 8月31日～2011年 8月29日 | 1.1%  |
| 第11計算期間   | 2011年 8月30日～2012年 8月29日 | 6.2%  |
| 第12計算期間   | 2012年 8月30日～2013年 8月29日 | 38.3% |
| 第13計算期間   | 2013年 8月30日～2014年 8月29日 | 17.3% |
| 第14計算期間   | 2014年 8月30日～2015年 8月31日 | 12.7% |
| 第15計算期間   | 2015年 9月 1日～2016年 8月29日 | 7.8%  |
| 第16計算期間   | 2016年 8月30日～2017年 8月29日 | 21.7% |
| 第17計算期間   | 2017年 8月30日～2018年 8月29日 | 11.7% |
| 第18計算期間   | 2018年 8月30日～2019年 8月29日 | 11.5% |
| 第19計算期間   | 2019年 8月30日～2020年 8月31日 | 14.8% |
| 第20期（中間期） | 2020年 9月 1日～2021年 2月28日 | 18.5% |

各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配額の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配額の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

## （４）設定及び解約の実績

|         | 計算期間                    | 設定口数        | 解約口数        | 発行済み口数      |
|---------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|
| 第10計算期間 | 2010年 8月31日～2011年 8月29日 | 319,150,528 | 245,525,346 | 732,587,410 |
| 第11計算期間 | 2011年 8月30日～2012年 8月29日 | 175,444,431 | 157,764,208 | 750,267,633 |
| 第12計算期間 | 2012年 8月30日～2013年 8月29日 | 387,051,038 | 404,007,625 | 733,311,046 |
| 第13計算期間 | 2013年 8月30日～2014年 8月29日 | 216,159,151 | 236,358,924 | 713,111,273 |
| 第14計算期間 | 2014年 8月30日～2015年 8月31日 | 276,726,017 | 325,831,124 | 664,006,166 |
| 第15計算期間 | 2015年 9月 1日～2016年 8月29日 | 241,069,645 | 151,340,738 | 753,735,073 |

|           |                         |             |             |             |
|-----------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|
| 第16計算期間   | 2016年 8月30日～2017年 8月29日 | 220,449,446 | 257,178,041 | 717,006,478 |
| 第17計算期間   | 2017年 8月30日～2018年 8月29日 | 216,207,326 | 237,942,094 | 695,271,710 |
| 第18計算期間   | 2018年 8月30日～2019年 8月29日 | 100,733,778 | 145,958,206 | 650,047,282 |
| 第19計算期間   | 2019年 8月30日～2020年 8月31日 | 123,551,016 | 212,201,607 | 561,396,691 |
| 第20期（中間期） | 2020年 9月 1日～2021年 2月28日 | 76,338,292  | 97,569,130  | 540,165,853 |

本邦外における設定及び解約の実績はありません。

参考情報

< 更新後 >



## 運用実績（2021年3月31日現在）

### ■ 基準価額・純資産の推移（日次）



### ■ 分配の推移

（1万口あたり、課税前）

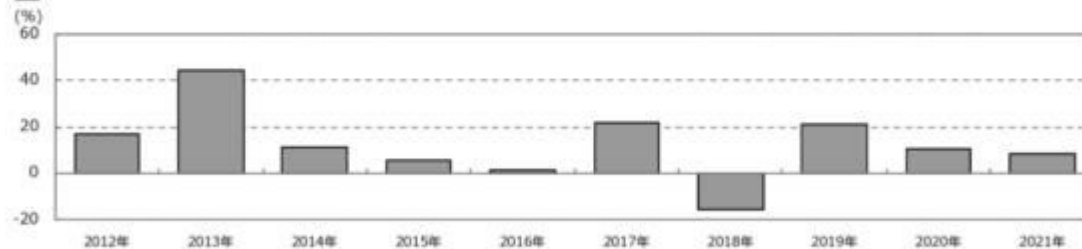
|         |       |
|---------|-------|
| 2020年8月 | 5 円   |
| 2019年8月 | 5 円   |
| 2018年8月 | 5 円   |
| 2017年8月 | 5 円   |
| 2016年8月 | 5 円   |
| 設定来累計   | 140 円 |

### ■ 主要な資産の状況

銘柄別投資比率（上位）

| 順位 | 銘柄                                 | 投資比率（％） |
|----|------------------------------------|---------|
| 1  | 野村DFA海外株式バリューファンドF（適格機関投資家専用）      | 13.2    |
| 2  | ストラテジック・バリュー・オープンF（適格機関投資家専用）      | 11.3    |
| 3  | シュローダー日本ファンドF（適格機関投資家専用）           | 9.3     |
| 4  | ディー・ロウ・プライス 海外株式ファンドF（適格機関投資家専用）   | 7.4     |
| 5  | One国内株オープンF（FOFs用）（適格機関投資家専用）      | 7.0     |
| 6  | SJAM/バリュー日本株F（適格機関投資家専用）           | 6.6     |
| 7  | グローバル・エクイティ（除く日本）・ファンドF（適格機関投資家専用） | 6.2     |
| 8  | ノムラ・ジャパン・オープンF（適格機関投資家専用）          | 6.1     |
| 9  | 日本フォーカス・グロースF（適格機関投資家専用）           | 5.7     |
| 10 | スパークス・厳選投資・日本株ファンドF（適格機関投資家専用）     | 5.1     |

### ■ 年間収益率の推移（暦年ベース）



- ・ファンドの年間収益率は税引前分配金を再投資して算出。
- ・2021年は年初から運用実績作成基準日までの収益率。

## 第3【ファンドの経理状況】

## マイストーリー・株100（確定拠出年金向け）

（1）当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）（以下「中間財務諸表等規則」という。）ならびに同規則第38条の3および第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）（以下「投資信託財産計算規則」という。）に基づいて作成しております。なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

（2）当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第20期中間計算期間（2020年9月1日から2021年2月28日まで）の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

## 中間財務諸表

## マイストーリー・株100（確定拠出年金向け）

## （1）中間貸借対照表

| （単位：円）          |                         |                                |
|-----------------|-------------------------|--------------------------------|
|                 | 第19期<br>(2020年 8月31日現在) | 第20期中間計算期間末<br>(2021年 2月28日現在) |
| <b>資産の部</b>     |                         |                                |
| 流動資産            |                         |                                |
| コール・ローン         | 15,060,080              | 33,300,236                     |
| 投資信託受益証券        | 1,139,384,985           | 1,299,779,392                  |
| 未収入金            | 1,778,126               | -                              |
| 流動資産合計          | 1,156,223,191           | 1,333,079,628                  |
| 資産合計            | 1,156,223,191           | 1,333,079,628                  |
| <b>負債の部</b>     |                         |                                |
| 流動負債            |                         |                                |
| 未払金             | 1,477,136               | -                              |
| 未払収益分配金         | 280,698                 | -                              |
| 未払解約金           | -                       | 17,153,194                     |
| 未払受託者報酬         | 171,691                 | 196,486                        |
| 未払委託者報酬         | 3,834,335               | 4,388,195                      |
| 未払利息            | 21                      | 36                             |
| その他未払費用         | 17,106                  | 19,591                         |
| 流動負債合計          | 5,780,987               | 21,757,502                     |
| 負債合計            | 5,780,987               | 21,757,502                     |
| <b>純資産の部</b>    |                         |                                |
| 元本等             |                         |                                |
| 元本              | 561,396,691             | 540,165,853                    |
| 剰余金             |                         |                                |
| 中間剰余金又は中間欠損金（ ） | 589,045,513             | 771,156,273                    |
| （分配準備積立金）       | 215,038,514             | 180,000,009                    |
| 元本等合計           | 1,150,442,204           | 1,311,322,126                  |
| 純資産合計           | 1,150,442,204           | 1,311,322,126                  |
| 負債純資産合計         | 1,156,223,191           | 1,333,079,628                  |

## （2）中間損益及び剰余金計算書

| （単位：円）      |                                              |                                              |
|-------------|----------------------------------------------|----------------------------------------------|
|             | 第19期中間計算期間<br>自 2019年 8月30日<br>至 2020年 2月29日 | 第20期中間計算期間<br>自 2020年 9月 1日<br>至 2021年 2月28日 |
| <b>営業収益</b> |                                              |                                              |
| 有価証券売買等損益   | 85,616,890                                   | 211,396,648                                  |

|                                           | 第19期中間計算期間<br>自 2019年 8月30日<br>至 2020年 2月29日 | 第20期中間計算期間<br>自 2020年 9月 1日<br>至 2021年 2月28日 |
|-------------------------------------------|----------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 営業収益合計                                    | 85,616,890                                   | 211,396,648                                  |
| 営業費用                                      |                                              |                                              |
| 支払利息                                      | 2,588                                        | 2,686                                        |
| 受託者報酬                                     | 198,626                                      | 196,486                                      |
| 委託者報酬                                     | 4,435,857                                    | 4,388,195                                    |
| その他費用                                     | 19,798                                       | 19,591                                       |
| 営業費用合計                                    | 4,656,869                                    | 4,606,958                                    |
| 営業利益又は営業損失（ ）                             | 80,960,021                                   | 206,789,690                                  |
| 経常利益又は経常損失（ ）                             | 80,960,021                                   | 206,789,690                                  |
| 中間純利益又は中間純損失（ ）                           | 80,960,021                                   | 206,789,690                                  |
| 一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ） | 24,951,016                                   | 16,795,347                                   |
| 期首剰余金又は期首欠損金（ ）                           | 510,564,690                                  | 589,045,513                                  |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額                            | 32,863,995                                   | 95,148,432                                   |
| 中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額                   | 32,863,995                                   | 95,148,432                                   |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額                            | 94,447,370                                   | 103,032,015                                  |
| 中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額                   | 94,447,370                                   | 103,032,015                                  |
| 分配金                                       | -                                            | -                                            |
| 中間剰余金又は中間欠損金（ ）                           | 504,990,320                                  | 771,156,273                                  |

## （ 3 ） 中間注記表

（ 重要な会計方針に係る事項に関する注記 ）

|                        |                                                                                                                                           |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 運用資産の評価基準及び評価方法     | 投資信託受益証券<br>原則として時価で評価しております。<br>時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場（計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場）で評価しております。<br>市場価格のない有価証券については基準価額で評価しております。 |
| 2. 費用・収益の計上基準          | 有価証券売買等損益<br>約定日基準で計上しております。                                                                                                              |
| 3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明 | 金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。                     |
| 4. その他                 | 当ファンドの中間計算期間は、2020年 9月 1日から2021年 2月28日までとなっております。                                                                                         |

## （ 中間貸借対照表に関する注記 ）

| 第19期<br>2020年 8月31日現在                                                         | 第20期中間計算期間末<br>2021年 2月28日現在                                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 計算期間の末日における受益権の総数<br>561,396,691口                                          | 1. 中間計算期間の末日における受益権の総数<br>540,165,853口                                          |
| 2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額<br>1口当たり純資産額 2.0493円<br>(10,000口当たり純資産額) (20,493円) | 2. 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額<br>1口当たり純資産額 2.4276円<br>(10,000口当たり純資産額) (24,276円) |

## （中間損益及び剰余金計算書に関する注記）

該当事項はありません。

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の時価等に関する事項

| 第19期<br>2020年 8月31日現在                                                                                                                                                                                                                             | 第20期中間計算期間末<br>2021年 2月28日現在                                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1．貸借対照表計上額、時価及び差額</p> <p>貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>2．時価の算定方法</p> <p>投資信託受益証券<br/>（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務<br/>これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p> | <p>1．中間貸借対照表計上額、時価及び差額</p> <p>中間貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>2．時価の算定方法</p> <p>投資信託受益証券<br/>（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務<br/>これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p> |

## （その他の注記）

## 1 元本の移動

| 第19期<br>自 2019年 8月30日<br>至 2020年 8月31日 | 第20期中間計算期間<br>自 2020年 9月 1日<br>至 2021年 2月28日 |
|----------------------------------------|----------------------------------------------|
| 期首元本額 650,047,282円                     | 期首元本額 561,396,691円                           |
| 期中追加設定元本額 123,551,016円                 | 期中追加設定元本額 76,338,292円                        |
| 期中一部解約元本額 212,201,607円                 | 期中一部解約元本額 97,569,130円                        |

## 2 デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

## 2 ファンドの現況

## 純資産額計算書

2021年3月31日現在

|      |                |
|------|----------------|
| 資産総額 | 1,335,509,986円 |
|------|----------------|

|                |                |
|----------------|----------------|
| 負債総額           | 1,781,483円     |
| 純資産総額（ - ）     | 1,333,728,503円 |
| 発行済口数          | 535,825,655口   |
| 1口当たり純資産額（ / ） | 2.4891円        |

## 第三部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1 委託会社等の概況

< 更新後 >

##### (1) 資本金の額

2021年4月末現在、17,180百万円

会社が発行する株式総数 20,000,000株

発行済株式総数 5,150,693株

過去5年間ににおける主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

##### (2) 会社の機構

###### (a) 会社の意思決定機構

当社は監査等委員会設置会社であり、会社の機関として株主総会、取締役会のほか代表取締役および監査等委員会を設けております。各機関の権限は以下のとおりです。

###### 株主総会

株主により構成され、取締役・会計監査人の選任・解任、剰余金の配当の承認、定款変更・合併等の重要事項の承認等を行います。

###### 取締役会

取締役により構成され、当社の業務につき意思決定を行います。また代表取締役等を選任し、取締役の職務の執行を監督します。

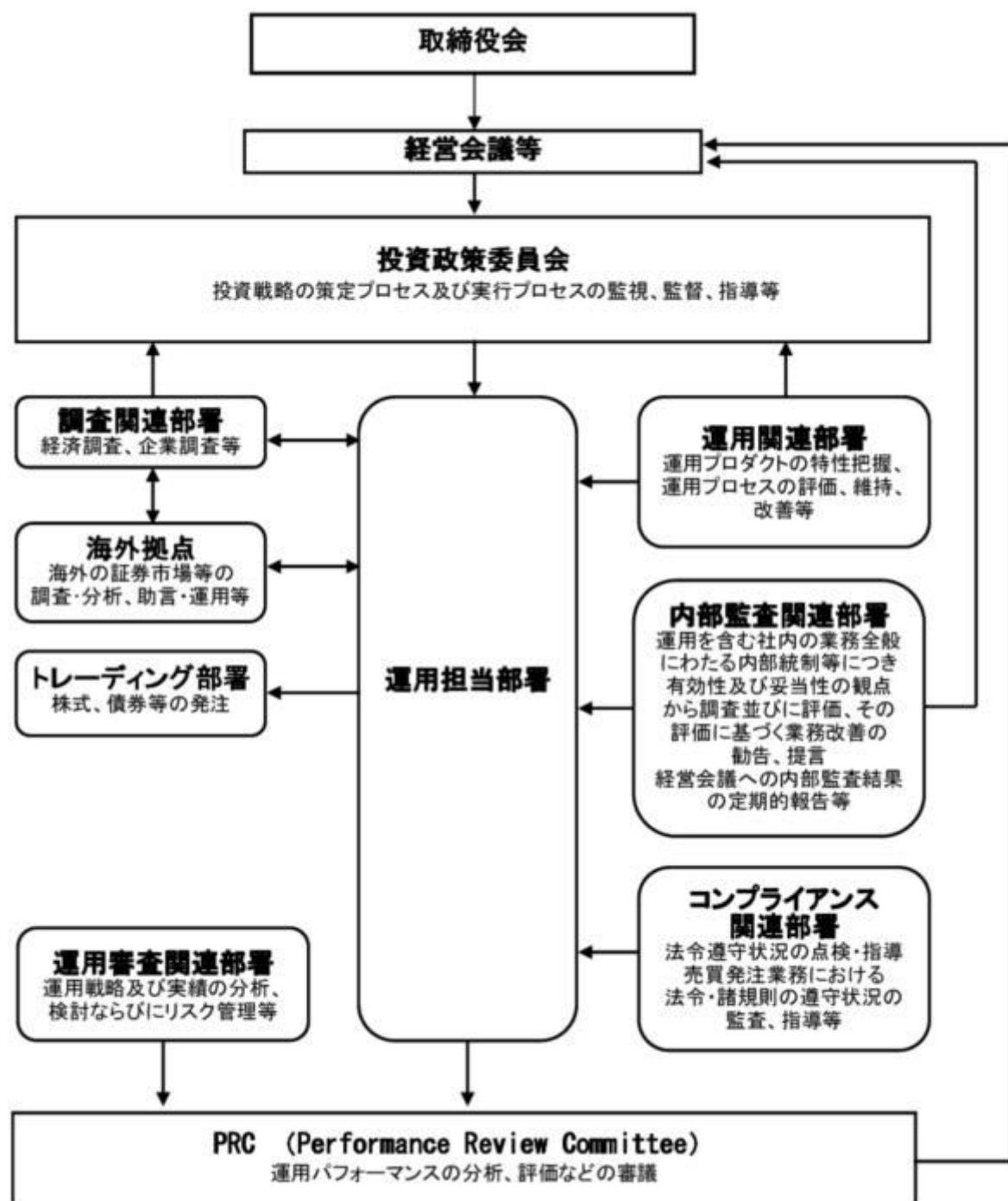
###### 代表取締役・業務執行取締役

代表取締役を含む各業務執行取締役は、当社の業務の執行を行います。代表取締役は当社を代表いたします。また取締役会により委任された一定の事項について、代表取締役を含む業務執行取締役で構成される経営会議が意思決定を行います。なお、当社は執行役員制度を導入しており、経営会議の構成員には執行役員が含まれます。

###### 監査等委員会

監査等委員である取締役3名以上（但し、過半数は社外取締役）で構成され、取締役の職務執行の適法性および妥当性に関する監査を行うとともに、株主総会に提出する会計監査人の選任・解任・不再任に関する議案の内容や監査等委員である取締役以外の取締役の選任・解任・辞任および報酬等についての監査等委員会としての意見を決定します。

## (b)投資信託の運用体制



## 2 事業の内容及び営業の概況

## &lt;更新後&gt;

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託者は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業に係る業務の一部及び投資助言業務を行っています。

委託者の運用する証券投資信託は2021年3月31日現在次の通りです(ただし、親投資信託を除きます。 )。

| 種類         | 本数    | 純資産総額(百万円) |
|------------|-------|------------|
| 追加型株式投資信託  | 997   | 37,670,416 |
| 単位型株式投資信託  | 191   | 798,983    |
| 追加型公社債投資信託 | 14    | 6,532,717  |
| 単位型公社債投資信託 | 497   | 1,621,470  |
| 合計         | 1,699 | 46,623,587 |

### 3 委託会社等の経理状況

#### < 更新後 >

1. 委託会社である野村アセットマネジメント株式会社(以下「委託会社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

委託会社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号、以下「中間財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

2. 財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表ならびに中間会計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査及び中間監査を受けております。

#### ( 1 ) 貸借対照表

|          |          | 前事業年度<br>(2019年3月31日) | 当事業年度<br>(2020年3月31日) |
|----------|----------|-----------------------|-----------------------|
| 区分       | 注記<br>番号 | 金額(百万円)               | 金額(百万円)               |
| (資産の部)   |          |                       |                       |
| 流動資産     |          |                       |                       |
| 現金・預金    |          | 1,562                 | 2,626                 |
| 金銭の信託    |          | 45,493                | 41,524                |
| 有価証券     |          | 19,900                | 24,399                |
| 前払費用     |          | 27                    | 106                   |
| 未収入金     |          | 500                   | 522                   |
| 未収委託者報酬  |          | 25,246                | 23,936                |
| 未収運用受託報酬 |          | 5,933                 | 4,336                 |
| その他      |          | 269                   | 71                    |

|          |   |        |         |        |         |
|----------|---|--------|---------|--------|---------|
| 貸倒引当金    |   |        | 15      |        | 14      |
| 流動資産計    |   |        | 98,917  |        | 97,509  |
| 固定資産     |   |        |         |        |         |
| 有形固定資産   |   |        | 714     |        | 645     |
| 建物       | 2 | 320    |         | 295    |         |
| 器具備品     | 2 | 393    |         | 349    |         |
| 無形固定資産   |   |        | 6,438   |        | 5,894   |
| ソフトウェア   |   | 6,437  |         | 5,893  |         |
| その他      |   | 0      |         | 0      |         |
| 投資その他の資産 |   |        | 18,608  |        | 16,486  |
| 投資有価証券   |   | 1,562  |         | 1,437  |         |
| 関係会社株式   |   | 12,631 |         | 10,171 |         |
| 従業員長期貸付金 |   | -      |         | 16     |         |
| 長期差入保証金  |   | 235    |         | 329    |         |
| 長期前払費用   |   | 22     |         | 19     |         |
| 前払年金費用   |   | 2,001  |         | 1,545  |         |
| 繰延税金資産   |   | 2,694  |         | 2,738  |         |
| その他      |   | 168    |         | 229    |         |
| 貸倒引当金    |   | -      |         | 0      |         |
| 投資損失引当金  |   | 707    |         | -      |         |
| 固定資産計    |   |        | 25,761  |        | 23,026  |
| 資産合計     |   |        | 124,679 |        | 120,536 |

|           |          | 前事業年度<br>(2019年3月31日) |        | 当事業年度<br>(2020年3月31日) |        |
|-----------|----------|-----------------------|--------|-----------------------|--------|
| 区分        | 注記<br>番号 | 金額(百万円)               |        | 金額(百万円)               |        |
| (負債の部)    |          |                       |        |                       |        |
| 流動負債      |          |                       |        |                       |        |
| 預り金       |          |                       | 145    |                       | 157    |
| 未払金       |          |                       | 16,709 |                       | 15,279 |
| 未払収益分配金   |          | 0                     |        | 0                     |        |
| 未払償還金     |          | 25                    |        | 3                     |        |
| 未払手数料     |          | 7,724                 |        | 6,948                 |        |
| 関係会社未払金   |          | 7,422                 |        | 7,262                 |        |
| その他未払金    |          | 1,535                 |        | 1,063                 |        |
| 未払費用      | 1        |                       | 11,704 |                       | 10,290 |
| 未払法人税等    |          |                       | 1,560  |                       | 1,564  |
| 前受収益      |          |                       | 29     |                       | 26     |
| 賞与引当金     |          |                       | 3,792  |                       | 3,985  |
| その他       |          |                       | -      |                       | 67     |
| 流動負債計     |          |                       | 33,942 |                       | 31,371 |
| 固定負債      |          |                       |        |                       |        |
| 退職給付引当金   |          |                       | 3,219  |                       | 3,311  |
| 時効後支払損引当金 |          |                       | 558    |                       | 572    |
| 固定負債計     |          |                       | 3,777  |                       | 3,883  |
| 負債合計      |          |                       | 37,720 |                       | 35,254 |
| (純資産の部)   |          |                       |        |                       |        |
| 株主資本      |          |                       | 86,924 |                       | 85,270 |
| 資本金       |          |                       | 17,180 |                       | 17,180 |
| 資本剰余金     |          |                       | 13,729 |                       | 13,729 |

|              |  |        |         |        |         |
|--------------|--|--------|---------|--------|---------|
| 資本準備金        |  | 11,729 |         | 11,729 |         |
| その他資本剰余金     |  | 2,000  |         | 2,000  |         |
| 利益剰余金        |  |        | 56,014  |        | 54,360  |
| 利益準備金        |  | 685    |         | 685    |         |
| その他利益剰余金     |  | 55,329 |         | 53,675 |         |
| 別途積立金        |  | 24,606 |         | 24,606 |         |
| 繰越利益剰余金      |  | 30,723 |         | 29,069 |         |
| 評価・換算差額等     |  |        | 33      |        | 10      |
| その他有価証券評価差額金 |  |        | 33      |        | 10      |
| 純資産合計        |  |        | 86,958  |        | 85,281  |
| 負債・純資産合計     |  |        | 124,679 |        | 120,536 |

## ( 2 ) 損益計算書

|           |          | 前事業年度<br>(自 2018年4月1日<br>至 2019年3月31日) | 当事業年度<br>(自 2019年4月1日<br>至 2020年3月31日) |
|-----------|----------|----------------------------------------|----------------------------------------|
| 区分        | 注記<br>番号 | 金額(百万円)                                | 金額(百万円)                                |
| 営業収益      |          |                                        |                                        |
| 委託者報酬     |          | 119,196                                | 115,736                                |
| 運用受託報酬    |          | 21,440                                 | 17,170                                 |
| その他営業収益   |          | 355                                    | 340                                    |
| 営業収益計     |          | 140,992                                | 133,247                                |
| 営業費用      |          |                                        |                                        |
| 支払手数料     |          | 42,675                                 | 39,435                                 |
| 広告宣伝費     |          | 1,210                                  | 1,006                                  |
| 公告費       |          | 0                                      | -                                      |
| 調査費       |          | 30,082                                 | 26,833                                 |
| 調査費       |          | 5,998                                  | 5,696                                  |
| 委託調査費     |          | 24,083                                 | 21,136                                 |
| 委託計算費     |          | 1,311                                  | 1,342                                  |
| 営業雑経費     |          | 5,435                                  | 5,823                                  |
| 通信費       |          | 92                                     | 75                                     |
| 印刷費       |          | 970                                    | 958                                    |
| 協会費       |          | 86                                     | 92                                     |
| 諸経費       |          | 4,286                                  | 4,696                                  |
| 営業費用計     |          | 80,715                                 | 74,440                                 |
| 一般管理費     |          |                                        |                                        |
| 給料        |          | 11,113                                 | 11,418                                 |
| 役員報酬      |          | 379                                    | 109                                    |
| 給料・手当     |          | 7,067                                  | 7,173                                  |
| 賞与        |          | 3,666                                  | 4,134                                  |
| 交際費       |          | 107                                    | 86                                     |
| 旅費交通費     |          | 514                                    | 391                                    |
| 租税公課      |          | 1,048                                  | 1,029                                  |
| 不動産賃借料    |          | 1,223                                  | 1,227                                  |
| 退職給付費用    |          | 1,474                                  | 1,486                                  |
| 固定資産減価償却費 |          | 2,835                                  | 2,348                                  |

|        |  |  |        |  |        |
|--------|--|--|--------|--|--------|
| 諸経費    |  |  | 10,115 |  | 10,067 |
| 一般管理費計 |  |  | 28,433 |  | 28,055 |
| 営業利益   |  |  | 31,843 |  | 30,751 |

|              |          | 前事業年度<br>(自 2018年4月1日<br>至 2019年3月31日) |        | 当事業年度<br>(自 2019年4月1日<br>至 2020年3月31日) |        |
|--------------|----------|----------------------------------------|--------|----------------------------------------|--------|
| 区分           | 注記<br>番号 | 金額(百万円)                                |        | 金額(百万円)                                |        |
| 営業外収益        |          |                                        |        |                                        |        |
| 受取配当金        | 1        | 6,538                                  |        | 4,936                                  |        |
| 受取利息         |          | 0                                      |        | 0                                      |        |
| その他          |          | 424                                    |        | 309                                    |        |
| 営業外収益計       |          |                                        | 6,964  |                                        | 5,246  |
| 営業外費用        |          |                                        |        |                                        |        |
| 支払利息         | 1        | 1                                      |        | -                                      |        |
| 金銭の信託運用損     |          | 489                                    |        | 230                                    |        |
| 投資事業組合等評価損   |          | -                                      |        | 146                                    |        |
| 時効後支払損引当金繰入額 |          | 43                                     |        | 18                                     |        |
| 為替差損         |          | 34                                     |        | 23                                     |        |
| その他          |          | 17                                     |        | 23                                     |        |
| 営業外費用計       |          |                                        | 585    |                                        | 443    |
| 経常利益         |          |                                        | 38,222 |                                        | 35,555 |
| 特別利益         |          |                                        |        |                                        |        |
| 投資有価証券等売却益   |          | 20                                     |        | 21                                     |        |
| 関係会社清算益      | 3        | 29                                     |        | -                                      |        |
| 株式報酬受入益      |          | 85                                     |        | 59                                     |        |
| 特別利益計        |          |                                        | 135    |                                        | 81     |
| 特別損失         |          |                                        |        |                                        |        |
| 投資有価証券等評価損   |          | 938                                    |        | 119                                    |        |
| 関係会社株式評価損    |          | 161                                    |        | 1,591                                  |        |
| 固定資産除却損      | 2        | 310                                    |        | 67                                     |        |
| 投資損失引当金繰入額   |          | 707                                    |        | -                                      |        |
| 特別損失計        |          |                                        | 2,118  |                                        | 1,778  |
| 税引前当期純利益     |          |                                        | 36,239 |                                        | 33,858 |
| 法人税、住民税及び事業税 |          |                                        | 10,196 |                                        | 9,896  |
| 法人税等調整額      |          |                                        | 370    |                                        | 34     |
| 当期純利益        |          |                                        | 25,672 |                                        | 23,996 |

## ( 3 ) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

|  | 株主資本  |  |  |          |  |
|--|-------|--|--|----------|--|
|  | 資本剰余金 |  |  | 利益剰余金    |  |
|  |       |  |  | その他利益剰余金 |  |

|                             | 資本金    | 資 本<br>準備金 | その他<br>資 本<br>剰余金 | 資 本<br>剰余金<br>合 計 | 利 益<br>準備金 | 別 途<br>積立金 | 繰<br>越<br>利 益<br>剰余金 | 利 益<br>剰余金<br>合 計 | 株 主<br>資 本<br>合 計 |
|-----------------------------|--------|------------|-------------------|-------------------|------------|------------|----------------------|-------------------|-------------------|
| 当期首残高                       | 17,180 | 11,729     | 2,000             | 13,729            | 685        | 24,606     | 29,876               | 55,168            | 86,078            |
| 当期変動額                       |        |            |                   |                   |            |            |                      |                   |                   |
| 剰余金の配当                      |        |            |                   |                   |            |            | 24,826               | 24,826            | 24,826            |
| 当期純利益                       |        |            |                   |                   |            |            | 25,672               | 25,672            | 25,672            |
| 株主資本以外の<br>項目の当期変動<br>額（純額） |        |            |                   |                   |            |            |                      |                   |                   |
| 当期変動額合計                     | -      | -          | -                 | -                 | -          | -          | 846                  | 846               | 846               |
| 当期末残高                       | 17,180 | 11,729     | 2,000             | 13,729            | 685        | 24,606     | 30,723               | 56,014            | 86,924            |

(単位：百万円)

|                                     | 評価・換算差額等         |                | 純資産合計  |
|-------------------------------------|------------------|----------------|--------|
|                                     | その他有価証<br>券評価差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |        |
| 当期首残高                               | 11               | 11             | 86,090 |
| 当期変動額                               |                  |                |        |
| 剰余金の配当                              |                  |                | 24,826 |
| 当期純利益                               |                  |                | 25,672 |
| 株主資本以外の項目<br>の 当 期 変 動 額 （ 純<br>額 ） | 21               | 21             | 21     |
| 当期変動額合計                             | 21               | 21             | 868    |
| 当期末残高                               | 33               | 33             | 86,958 |

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

|        | 株主資本   |            |                   |                   |            |            |                      |                   | 株 主<br>資 本<br>合 計 |
|--------|--------|------------|-------------------|-------------------|------------|------------|----------------------|-------------------|-------------------|
|        | 資本金    | 資本剰余金      |                   |                   | 利益剰余金      |            |                      |                   |                   |
|        |        | 資 本<br>準備金 | その他<br>資 本<br>剰余金 | 資 本<br>剰余金<br>合 計 | 利 益<br>準備金 | その他利益剰余金   |                      | 利 益<br>剰余金<br>合 計 |                   |
|        |        |            |                   |                   |            | 別 途<br>積立金 | 繰<br>越<br>利 益<br>剰余金 |                   |                   |
| 当期首残高  | 17,180 | 11,729     | 2,000             | 13,729            | 685        | 24,606     | 30,723               | 56,014            | 86,924            |
| 当期変動額  |        |            |                   |                   |            |            |                      |                   |                   |
| 剰余金の配当 |        |            |                   |                   |            |            | 25,650               | 25,650            | 25,650            |
| 当期純利益  |        |            |                   |                   |            |            | 23,996               | 23,996            | 23,996            |

|                     |        |        |       |        |     |        |        |        |        |
|---------------------|--------|--------|-------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） |        |        |       |        |     |        |        |        |        |
| 当期変動額合計             | -      | -      | -     | -      | -   | -      | 1,653  | 1,653  | 1,653  |
| 当期末残高               | 17,180 | 11,729 | 2,000 | 13,729 | 685 | 24,606 | 29,069 | 54,360 | 85,270 |

(単位：百万円)

|                     | 評価・換算差額等     |            | 純資産合計  |
|---------------------|--------------|------------|--------|
|                     | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 |        |
| 当期首残高               | 33           | 33         | 86,958 |
| 当期変動額               |              |            |        |
| 剰余金の配当              |              |            | 25,650 |
| 当期純利益               |              |            | 23,996 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 23           | 23         | 23     |
| 当期変動額合計             | 23           | 23         | 1,676  |
| 当期末残高               | 10           | 10         | 85,281 |

## [重要な会計方針]

|                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1．有価証券の評価基準及び評価方法  | <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 … 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券<br/> 時価のあるもの … 決算期末日の市場価格等に基づく時価法<br/> (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)<br/> 時価のないもの … 移動平均法による原価法</p>                                                                                                                                     |
| 2．金銭の信託の評価基準及び評価方法 | 時価法                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 3．固定資産の減価償却の方法     | <p>(1) 有形固定資産<br/> 定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)、並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。<br/> 主な耐用年数は以下の通りであります。<br/> 建物 38～50年<br/> 附属設備 8～15年<br/> 構築物 20年<br/> 器具備品 4～15年</p> <p>(2) 無形固定資産及び投資その他の資産<br/> 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4．引当金の計上基準    | <p>(1) 貸倒引当金<br/>一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金<br/>賞与の支払いに備えるため、支払見込額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金<br/>従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企业年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。<br/>退職給付見込額の期間帰属方法<br/>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。<br/>数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法<br/>確定給付型企业年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。<br/>退職一時金及び確定給付型企业年金に係る過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金<br/>時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p> |
| 5．消費税等の会計処理方法 | <p>消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当期の費用として処理しております。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 6．連結納税制度の適用   | <p>連結納税制度を適用しております。</p> <p>なお、当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

#### [ 未適用の会計基準等 ]

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日）

#### (1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

## （２）適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

## （３）当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日）
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日）
- ・「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）

### （１）概要

国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針（以下「時価算定会計基準等」という。）が開発され、時価の算定方法に関するガイダンス等が定められました。時価算定会計基準等は次の項目の時価に適用されます。

- ・「金融商品に関する会計基準」における金融商品

また「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」が改訂され、金融商品の時価のレベルごとの内訳等の注記事項が定められました。

## （２）適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

## （３）当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 2020年3月31日）

### （１）概要

関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続きの概要を示すことを目的とするものです。

## （２）適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準（企業会計基準第31号 2020年3月31日）」

### （１）概要

当年度の財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目における会計上の見積りの内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものです。

## （２）適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

## [注記事項]

### 貸借対照表関係

| 前事業年度末<br>(2019年3月31日)                                                      | 当事業年度末<br>(2020年3月31日)                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1. 関係会社に対する資産及び負債<br>区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。<br>未払費用 1,434百万円 | 1. 関係会社に対する資産及び負債<br>区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。<br>未払費用 1,296百万円 |
| 2. 有形固定資産より控除した減価償却累計額<br>建物 736百万円<br>器具備品 3,106<br>合計 3,842               | 2. 有形固定資産より控除した減価償却累計額<br>建物 761百万円<br>器具備品 2,347<br>合計 3,109               |

## 損益計算書関係

| 前事業年度<br>(自 2018年4月 1 日<br>至 2019年3月31日)                                        | 当事業年度<br>(自 2019年4月 1 日<br>至 2020年3月31日)                              |
|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 1. 関係会社に係る注記<br>区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。<br>受取配当金 6,531百万円<br>支払利息 1 | 1. 関係会社に係る注記<br>区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。<br>受取配当金 4,931百万円 |
| 2. 固定資産除却損<br>器具備品 3百万円<br>ソ フ ト ウ エ 307<br>ア<br>合計 310                         | 2. 固定資産除却損<br>器具備品 7百万円<br>ソ フ ト ウ エ 59<br>ア<br>合計 67                 |
| 3. 関係会社清算益<br>関係会社清算益は、関係会社の清算にともなう清算配当です。                                      |                                                                       |

## 株主資本等変動計算書関係

前事業年度(自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末株式数  |
|-------|------------|------------|------------|------------|
| 普通株式  | 5,150,693株 | -          | -          | 5,150,693株 |

## 2. 剰余金の配当に関する事項

## (1) 配当財産が金銭である場合における当該金銭の総額

2018年5月14日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額 24,826百万円

配当の原資 利益剰余金

1株当たり配当額 4,820円

基準日 2018年3月31日

効力発生日 2018年6月25日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2019年5月15日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

|          |            |
|----------|------------|
| 配当金の総額   | 25,650百万円  |
| 配当の原資    | 利益剰余金      |
| 1株当たり配当額 | 4,980円     |
| 基準日      | 2019年3月31日 |
| 効力発生日    | 2019年6月28日 |

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首株式数 | 当事業年度増加株式数 | 当事業年度減少株式数 | 当事業年度末株式数  |
|-------|------------|------------|------------|------------|
| 普通株式  | 5,150,693株 | -          | -          | 5,150,693株 |

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当財産が金銭である場合における当該金銭の総額

2019年5月15日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

|          |            |
|----------|------------|
| 配当金の総額   | 25,650百万円  |
| 配当の原資    | 利益剰余金      |
| 1株当たり配当額 | 4,980円     |
| 基準日      | 2019年3月31日 |
| 効力発生日    | 2019年6月28日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2020年5月19日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

|          |            |
|----------|------------|
| 配当金の総額   | 23,950百万円  |
| 配当の原資    | 利益剰余金      |
| 1株当たり配当額 | 4,650円     |
| 基準日      | 2020年3月31日 |
| 効力発生日    | 2020年6月30日 |

金融商品関係

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を特定金外信託を通じ保有しております。特定金外信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資信託保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、

親会社である野村ホールディングス株式会社及びその他の金融機関からの短期借入による方針であります。

## （２）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

特定金外信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用調査本部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。同じく営業債権である未収運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき、運用受託者に対して支払われる報酬の未払金額であります。この未収運用受託報酬は、信託財産から運用受託者に対して支払われる場合は、信託財産が信託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しており、顧客から直接運用受託者に対して支払われる場合は、当該顧客の信用リスクにさらされておりますが、顧客ごとに決済期日および残高を管理することにより、回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

## ２．金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

（単位：百万円）

|                 | 貸借対照表計上額 | 時価     | 差額 |
|-----------------|----------|--------|----|
| (1)現金・預金        | 1,562    | 1,562  | -  |
| (2)金銭の信託        | 45,493   | 45,493 | -  |
| (3)未収委託者報酬      | 25,246   | 25,246 | -  |
| (4)未収運用受託報酬     | 5,933    | 5,933  | -  |
| (5)有価証券及び投資有価証券 | 19,900   | 19,900 | -  |
| その他有価証券         | 19,900   | 19,900 | -  |
| 資産計             | 98,136   | 98,136 | -  |
| (6)未払金          | 16,709   | 16,709 | -  |
| 未払収益分配金         | 0        | 0      | -  |
| 未払償還金           | 25       | 25     | -  |
| 未払手数料           | 7,724    | 7,724  | -  |
| 関係会社未払金         | 7,422    | 7,422  | -  |
| その他未払金          | 1,535    | 1,535  | -  |

|           |        |        |   |
|-----------|--------|--------|---|
| (7)未払費用   | 11,704 | 11,704 | - |
| (8)未払法人税等 | 1,560  | 1,560  | - |
| 負債計       | 29,974 | 29,974 | - |

注1：金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金・預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

その他有価証券

譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(6) 未払金、(7) 未払費用、(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

注2：非上場株式等（貸借対照表計上額：投資有価証券1,562百万円、関係会社株式12,631百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。なお、当事業年度において、非上場株式について1,100百万円（投資有価証券938百万円、関係会社株式161百万円）減損処理を行っております。

注3：金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：百万円）

|       | 1年以内   | 1年超<br>5年以内 | 5年超<br>10年以内 | 10年超 |
|-------|--------|-------------|--------------|------|
| 預金    | 1,562  | -           | -            | -    |
| 金銭の信託 | 45,493 | -           | -            | -    |

|              |        |   |   |   |
|--------------|--------|---|---|---|
| 未収委託者報酬      | 25,246 | - | - | - |
| 未収運用受託報酬     | 5,933  | - | - | - |
| 有価証券及び投資有価証券 |        |   |   |   |
| 其他有価証券       | 19,900 | - | - | - |
| 合計           | 98,136 | - | - | - |

当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

### （１）金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を特定金外信託を通じ保有しております。特定金外信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資信託保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、親会社である野村ホールディングス株式会社及びその他の金融機関からの短期借入による方針であります。

### （２）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

特定金外信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用調査本部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。同じく営業債権である未収運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき、運用受託者に対して支払われる報酬の未払金額であります。この未収運用受託報酬は、信託財産から運用受託者に対して支払われる場合は、信託財産が信託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しており、顧客から直接運用受託者に対して支払われる場合は、当該顧客の信用リスクにさらされておりますが、顧客ごとに決済期日および残高を管理することにより、回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(単位：百万円)

|                 | 貸借対照表計上額 | 時価     | 差額 |
|-----------------|----------|--------|----|
| (1)現金・預金        | 2,626    | 2,626  | -  |
| (2)金銭の信託        | 41,524   | 41,524 | -  |
| (3)未収委託者報酬      | 23,936   | 23,936 | -  |
| (4)未収運用受託報酬     | 4,336    | 4,336  | -  |
| (5)有価証券及び投資有価証券 | 24,399   | 24,399 | -  |
| その他有価証券         | 24,399   | 24,399 | -  |
| 資産計             | 96,823   | 96,823 | -  |
| (6)未払金          | 15,279   | 15,279 | -  |
| 未払収益分配金         | 0        | 0      | -  |
| 未払償還金           | 3        | 3      | -  |
| 未払手数料           | 6,948    | 6,948  | -  |
| 関係会社未払金         | 7,262    | 7,262  | -  |
| その他未払金          | 1,063    | 1,063  | -  |
| (7)未払費用         | 10,290   | 10,290 | -  |
| (8)未払法人税等       | 1,564    | 1,564  | -  |
| 負債計             | 27,134   | 27,134 | -  |

注1：金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

## (1) 現金・預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (3)未収委託者報酬、(4)未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (5) 有価証券及び投資有価証券

## その他有価証券

譲渡性預金及びコマーシャル・ペーパーは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

## (6) 未払金、(7) 未払費用、(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

注2：非上場株式等（貸借対照表計上額：投資有価証券1,437百万円、関係会社株式10,171百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。当事業年度において、非上場株式について2,416百万円（投資有価証券117百万円、関係会社株式2,298百万円）減損処理を行っております。なお、関係会社株式に係る評価損は、過年度に計上しておりました関係会社株式に対する投資損失引当金の戻入益707百万円と相殺し、関係会社株式評価損1,591百万円を特別損失に計上しております。

## 注3：金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

|              | 1年以内   | 1年超<br>5年以内 | 5年超<br>10年以内 | 10年超 |
|--------------|--------|-------------|--------------|------|
| 預金           | 2,626  | -           | -            | -    |
| 金銭の信託        | 41,524 | -           | -            | -    |
| 未収委託者報酬      | 23,936 | -           | -            | -    |
| 未収運用受託報酬     | 4,336  | -           | -            | -    |
| 有価証券及び投資有価証券 |        |             |              |      |
| その他有価証券      | 24,399 | -           | -            | -    |
| 合計           | 96,823 | -           | -            | -    |

## 有価証券関係

前事業年度（自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日）

## 1．売買目的有価証券(2019年3月31日)

該当事項はありません。

## 2．満期保有目的の債券(2019年3月31日)

該当事項はありません。

## 3．子会社株式及び関連会社株式(2019年3月31日)

該当事項はありません。

## 4．その他有価証券(2019年3月31日)

| 区分                   | 貸借対照表<br>計上額<br>(百万円) | 取得原価<br>(百万円) | 差額<br>(百万円) |
|----------------------|-----------------------|---------------|-------------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの  |                       |               |             |
| 株式                   | -                     | -             | -           |
| 小計                   | -                     | -             | -           |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの |                       |               |             |
| 譲渡性預金                | 19,900                | 19,900        | -           |
| 小計                   | 19,900                | 19,900        | -           |
| 合計                   | 19,900                | 19,900        | -           |

５．事業年度中に売却したその他有価証券（自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2019年4月 1 日 至 2020年3月31日）

１．売買目的有価証券(2020年3月31日)

該当事項はありません。

２．満期保有目的の債券(2020年3月31日)

該当事項はありません。

３．子会社株式及び関連会社株式(2020年3月31日)

該当事項はありません。

４．その他有価証券(2020年3月31日)

| 区分                   | 貸借対照表<br>計上額<br>(百万円) | 取得原価<br>(百万円) | 差額<br>(百万円) |
|----------------------|-----------------------|---------------|-------------|
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの  |                       |               |             |
| 株式                   | -                     | -             | -           |
| 小計                   | -                     | -             | -           |
| 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの |                       |               |             |
| 譲渡性預金                | 4,400                 | 4,400         | -           |
| コマーシャル・ペーパー          | 19,999                | 19,999        | -           |
| 小計                   | 24,399                | 24,399        | -           |
| 合計                   | 24,399                | 24,399        | -           |

## 5．事業年度中に売却したその他有価証券（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

## 退職給付関係

| 前事業年度(自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日)                                   |            |
|---------------------------------------------------------------------|------------|
| 1．採用している退職給付制度の概要                                                   |            |
| 当社は、確定給付型の制度として確定給付型企业年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。 |            |
| 2．確定給付制度                                                            |            |
| (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表                                            |            |
| 退職給付債務の期首残高                                                         | 21,398 百万円 |
| 勤務費用                                                                | 951        |
| 利息費用                                                                | 179        |
| 数理計算上の差異の発生額                                                        | 1,672      |
| 退職給付の支払額                                                            | 737        |
| 過去勤務費用の発生額                                                          | 71         |
| その他                                                                 | 15         |
| 退職給付債務の期末残高                                                         | 23,551     |
| (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表                                              |            |
| 年金資産の期首残高                                                           | 17,373 百万円 |
| 期待運用収益                                                              | 434        |
| 数理計算上の差異の発生額                                                        | 241        |
| 事業主からの拠出額                                                           | 483        |
| 退職給付の支払額                                                            | 579        |
| 年金資産の期末残高                                                           | 17,469     |
| (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表                |            |
| 積立型制度の退職給付債務                                                        | 20,181 百万円 |
| 年金資産                                                                | 17,469     |
|                                                                     | 2,712      |
| 非積立型制度の退職給付債務                                                       | 3,369      |
| 未積立退職給付債務                                                           | 6,082      |
| 未認識数理計算上の差異                                                         | 5,084      |
| 未認識過去勤務費用                                                           | 220        |
| 貸借対照表上に計上された負債と資産の純額                                                | 1,218      |
| 退職給付引当金                                                             | 3,219      |
| 前払年金費用                                                              | 2,001      |
| 貸借対照表上に計上された負債と資産の純額                                                | 1,218      |
| (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額                                               |            |
| 勤務費用                                                                | 951 百万円    |
| 利息費用                                                                | 179        |
| 期待運用収益                                                              | 434        |
| 数理計算上の差異の費用処理額                                                      | 598        |
| 過去勤務費用の費用処理額                                                        | 38         |
| 確定給付制度に係る退職給付費用                                                     | 1,255      |

## (5) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内容

年金資産合計に対する主な分類毎の比率は、次の通りです。

|        |      |
|--------|------|
| 債券     | 47%  |
| 株式     | 41%  |
| 生保一般勘定 | 12%  |
| その他    | 0%   |
| 合計     | 100% |

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

|                 |      |
|-----------------|------|
| 確定給付型企业年金制度の割引率 | 0.7% |
| 退職一時金制度の割引率     | 0.4% |
| 長期期待運用収益率       | 2.5% |

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、197百万円でした。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付型企业年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

|              |            |
|--------------|------------|
| 退職給付債務の期首残高  | 23,551 百万円 |
| 勤務費用         | 1,034      |
| 利息費用         | 154        |
| 数理計算上の差異の発生額 | 138        |
| 退職給付の支払額     | 858        |
| その他          | 17         |
| 退職給付債務の期末残高  | 23,761     |

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

|              |            |
|--------------|------------|
| 年金資産の期首残高    | 17,469 百万円 |
| 期待運用収益       | 436        |
| 数理計算上の差異の発生額 | 393        |
| 事業主からの拠出額    | 566        |
| 退職給付の支払額     | 666        |
| 年金資産の期末残高    | 17,413     |

## (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金

## 及び前払年金費用の調整表

|              |            |
|--------------|------------|
| 積立型制度の退職給付債務 | 20,462 百万円 |
| 年金資産         | 17,413     |

|  |       |
|--|-------|
|  | 3,048 |
|--|-------|

|               |       |
|---------------|-------|
| 非積立型制度の退職給付債務 | 3,299 |
|---------------|-------|

|           |       |
|-----------|-------|
| 未積立退職給付債務 | 6,347 |
|-----------|-------|

|             |       |
|-------------|-------|
| 未認識数理計算上の差異 | 4,764 |
|-------------|-------|

|           |     |
|-----------|-----|
| 未認識過去勤務費用 | 185 |
|-----------|-----|

|                      |       |
|----------------------|-------|
| 貸借対照表上に計上された負債と資産の純額 | 1,766 |
|----------------------|-------|

|         |       |
|---------|-------|
| 退職給付引当金 | 3,311 |
|---------|-------|

|        |       |
|--------|-------|
| 前払年金費用 | 1,545 |
|--------|-------|

|                      |       |
|----------------------|-------|
| 貸借対照表上に計上された負債と資産の純額 | 1,766 |
|----------------------|-------|

## (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

|      |           |
|------|-----------|
| 勤務費用 | 1,034 百万円 |
|------|-----------|

|      |     |
|------|-----|
| 利息費用 | 154 |
|------|-----|

|        |     |
|--------|-----|
| 期待運用収益 | 436 |
|--------|-----|

|                |     |
|----------------|-----|
| 数理計算上の差異の費用処理額 | 572 |
|----------------|-----|

|              |    |
|--------------|----|
| 過去勤務費用の費用処理額 | 35 |
|--------------|----|

|                 |       |
|-----------------|-------|
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 1,289 |
|-----------------|-------|

## (5) 年金資産に関する事項

## 年金資産の主な内容

年金資産合計に対する主な分類毎の比率は、次の通りです。

|    |     |
|----|-----|
| 債券 | 57% |
|----|-----|

|    |     |
|----|-----|
| 株式 | 24% |
|----|-----|

|        |     |
|--------|-----|
| 生保一般勘定 | 12% |
|--------|-----|

|        |    |
|--------|----|
| 生保特別勘定 | 7% |
|--------|----|

|     |    |
|-----|----|
| その他 | 0% |
|-----|----|

|    |      |
|----|------|
| 合計 | 100% |
|----|------|

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

|                 |      |
|-----------------|------|
| 確定給付型企业年金制度の割引率 | 0.6% |
|-----------------|------|

|             |      |
|-------------|------|
| 退職一時金制度の割引率 | 0.5% |
|-------------|------|

|           |      |
|-----------|------|
| 長期期待運用収益率 | 2.5% |
|-----------|------|

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、202百万円でした。

## 税効果会計関係

|                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 前事業年度末<br>(2019年3月31日) | 当事業年度末<br>(2020年3月31日) |
|------------------------|------------------------|

|                                                |       |                                                |       |
|------------------------------------------------|-------|------------------------------------------------|-------|
| 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳                  |       | 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳                  |       |
| 繰延税金資産                                         | 百万円   | 繰延税金資産                                         | 百万円   |
| 賞与引当金                                          | 1,175 | 賞与引当金                                          | 1,235 |
| 退職給付引当金                                        | 998   | 退職給付引当金                                        | 1,026 |
| 関係会社株式評価減                                      | 51    | 関係会社株式評価減                                      | 762   |
| 投資有価証券評価減                                      | 708   | 投資有価証券評価減                                      | 462   |
| 未払事業税                                          | 288   | 未払事業税                                          | 285   |
| 時効後支払損引当金                                      | 172   | 時効後支払損引当金                                      | 177   |
| 減価償却超過額                                        | 171   | 減価償却超過額                                        | 171   |
| ゴルフ会員権評価減                                      | 192   | ゴルフ会員権評価減                                      | 167   |
| 関係会社株式売却損                                      | 148   | 関係会社株式売却損                                      | 148   |
| 未払社会保険料                                        | 82    | 未払社会保険料                                        | 97    |
| その他                                            | 633   | その他                                            | 219   |
| 繰延税金資産小計                                       | 4,625 | 繰延税金資産小計                                       | 4,754 |
| 評価性引当額                                         | 1,295 | 評価性引当額                                         | 1,532 |
| 繰延税金資産合計                                       | 3,329 | 繰延税金資産合計                                       | 3,222 |
| 繰延税金負債                                         |       | 繰延税金負債                                         |       |
| その他有価証券評価差額金                                   | 15    | その他有価証券評価差額金                                   | 4     |
| 前払年金費用                                         | 620   | 前払年金費用                                         | 478   |
| 繰延税金負債合計                                       | 635   | 繰延税金負債合計                                       | 483   |
| 繰延税金資産の純額                                      | 2,694 | 繰延税金資産の純額                                      | 2,738 |
| 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 |       | 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 |       |
| 法定実効税率                                         | 31.0% | 法定実効税率                                         | 31.0% |
| (調整)                                           |       | (調整)                                           |       |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目                             | 0.1%  | 交際費等永久に損金に算入されない項目                             | 0.0%  |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目                           | 5.6%  | 受取配当金等永久に益金に算入されない項目                           | 4.4%  |
| タックスヘイブン税制                                     | 2.6%  | タックスヘイブン税制                                     | 2.6%  |
| 外国税額控除                                         | 0.6%  | 外国税額控除                                         | 0.7%  |
| 外国子会社からの受取配当に係る外国源泉税                           | 0.3%  | 外国子会社からの受取配当に係る外国源泉税                           | 0.2%  |
| その他                                            | 1.3%  | その他                                            | 0.4%  |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率                              | 29.1% | 税効果会計適用後の法人税等の負担率                              | 29.1% |

## セグメント情報等

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

## 1. セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 2. 関連情報

## (1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 地域ごとの情報

## 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域

ごとの営業収益の記載を省略しております。

#### 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

### （３）主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

## １．セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## ２．関連情報

### （１）製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

### （２）地域ごとの情報

#### 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

#### 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

### （３）主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

## 関連当事者情報

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

## １．関連当事者との取引

### （ア）親会社及び法人主要株主等

| 種類  | 会社等の名称         | 所在地    | 資本金              | 事業の内容 | 議決権等の所有<br>(被所有)割合  | 関連当事者との関係                | 取引の内容     | 取引金額<br>(百万円) | 科目    | 期末残高<br>(百万円) |
|-----|----------------|--------|------------------|-------|---------------------|--------------------------|-----------|---------------|-------|---------------|
| 親会社 | 野村ホールディングス株式会社 | 東京都中央区 | 594,492<br>(百万円) | 持株会社  | (被所有)<br>直接<br>100% | 資産の賃貸借及び購入等<br><br>役員の兼任 | 資金の借入(*1) | 3,000         | 短期借入金 | -             |
|     |                |        |                  |       |                     |                          | 資金の返済     | 3,000         |       |               |
|     |                |        |                  |       |                     |                          | 借入金利息の支払  | 1             | 未払費用  | -             |

### （イ）子会社等

該当はありません。

（ウ）兄弟会社等

| 種類      | 会社等の名称   | 所在地    | 資本金             | 事業の内容 | 議決権等の所有<br>(被所有)割合 | 関連当事者との関係                                       | 取引の内容                 | 取引金額<br>(百万円) | 科目    | 期末残高<br>(百万円) |
|---------|----------|--------|-----------------|-------|--------------------|-------------------------------------------------|-----------------------|---------------|-------|---------------|
| 親会社の子会社 | 野村証券株式会社 | 東京都中央区 | 10,000<br>(百万円) | 証券業   | -                  | 当社投資信託の募集の取扱及び売上の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等<br>役員の兼任 | 投資信託に係る事務代行手数料の支払（*2） | 34,646        | 未払手数料 | 6,410         |

（エ）役員及び個人主要株主等

該当はありません。

- (注) 1．上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
 2．取引条件及び取引条件の決定方針等  
 (\*1) 資金の借入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。  
 (\*2) 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

2．親会社又は重要な関連会社に関する注記

（1）親会社情報

野村ホールディングス㈱（東京証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場）

（2）重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1．関連当事者との取引

（ア）親会社及び法人主要株主等

該当はありません。

（イ）子会社等

該当はありません。

（ウ）兄弟会社等

| 種類 | 会社等の名称 | 所在地 | 資本金 | 事業の内容 | 議決権等の所有<br>(被所有)割合 | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額<br>(百万円) | 科目 | 期末残高<br>(百万円) |
|----|--------|-----|-----|-------|--------------------|-----------|-------|---------------|----|---------------|
|----|--------|-----|-----|-------|--------------------|-----------|-------|---------------|----|---------------|

|         |          |        |                 |     |   |                                                 |                       |        |          |        |
|---------|----------|--------|-----------------|-----|---|-------------------------------------------------|-----------------------|--------|----------|--------|
| 親会社の子会社 | 野村證券株式会社 | 東京都中央区 | 10,000<br>(百万円) | 証券業 | - | 当社投資信託の募集の取扱及び売出の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等<br>役員の兼任 | 投資信託に係る事務代行手数料の支払（*1） | 31,378 | 未払手数料    | 5,536  |
|         |          |        |                 |     |   |                                                 | コマーシャル・ペーパーの購入（*2）    | 20,000 | 有価証券     | 19,999 |
|         |          |        |                 |     |   |                                                 | 有価証券受取利息              | 0      | その他営業外収益 | 0      |

## （エ）役員及び個人主要株主等

該当はありません。

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

( \* 1 ) 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

( \* 2 ) コマーシャル・ペーパーの購入については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## （1）親会社情報

野村ホールディングス㈱（東京証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場）

## （2）重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

## 1 株当たり情報

| 前事業年度<br>(自 2018年4月1日<br>至 2019年3月31日)        |            | 当事業年度<br>(自 2019年4月1日<br>至 2020年3月31日)        |            |
|-----------------------------------------------|------------|-----------------------------------------------|------------|
| 1 株当たり純資産額                                    | 16,882円89銭 | 1 株当たり純資産額                                    | 16,557円31銭 |
| 1 株当たり当期純利益                                   | 4,984円30銭  | 1 株当たり当期純利益                                   | 4,658円88銭  |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 |            | 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 |            |
| 1 株当たり当期純利益の算定上の基礎                            |            | 1 株当たり当期純利益の算定上の基礎                            |            |
| 損益計算書上の当期純利益                                  | 25,672百万円  | 損益計算書上の当期純利益                                  | 23,996百万円  |
| 普通株式に係る当期純利益                                  | 25,672百万円  | 普通株式に係る当期純利益                                  | 23,996百万円  |
| 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳                            |            | 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳                            |            |
| 該当事項はありません。                                   |            | 該当事項はありません。                                   |            |
| 普通株式の期中平均株式数                                  | 5,150,693株 | 普通株式の期中平均株式数                                  | 5,150,693株 |

## 中間財務諸表

## 中間貸借対照表

|          |          | 2020年9月30日現在 |
|----------|----------|--------------|
| 区分       | 注記<br>番号 | 金額(百万円)      |
| (資産の部)   |          |              |
| 流動資産     |          |              |
| 現金・預金    |          | 2,307        |
| 金銭の信託    |          | 40,828       |
| 有価証券     |          | 10,500       |
| 未収委託者報酬  |          | 24,249       |
| 未収運用受託報酬 |          | 4,560        |
| その他      |          | 894          |
| 貸倒引当金    |          | 14           |
| 流動資産計    |          | 83,326       |
| 固定資産     | 1        |              |
| 有形固定資産   |          | 2,998        |
| 無形固定資産   |          | 5,462        |
| ソフトウェア   |          | 5,461        |
| その他      |          | 0            |
| 投資その他の資産 |          | 15,942       |
| 投資有価証券   |          | 1,701        |
| 関係会社株式   |          | 10,171       |
| 前払年金費用   |          | 1,429        |
| 繰延税金資産   |          | 2,003        |
| その他      |          | 636          |
| 固定資産計    |          | 24,403       |
| 資産合計     |          | 107,730      |

|           |          | 2020年9月30日現在 |
|-----------|----------|--------------|
| 区分        | 注記<br>番号 | 金額(百万円)      |
| (負債の部)    |          |              |
| 流動負債      |          |              |
| 未払金       |          | 11,513       |
| 未払収益分配金   |          | 0            |
| 未払償還金     |          | 0            |
| 未払手数料     |          | 6,651        |
| 関係会社未払金   |          | 4,007        |
| その他未払金    | 2        | 853          |
| 未払費用      |          | 9,953        |
| 未払法人税等    |          | 1,444        |
| 賞与引当金     |          | 2,005        |
| その他       |          | 147          |
| 流動負債計     |          | 25,063       |
| 固定負債      |          |              |
| 退職給付引当金   |          | 3,350        |
| 時効後支払損引当金 |          | 579          |
| 資産除去債務    |          | 1,371        |
| 固定負債計     |          | 5,300        |
| 負債合計      |          | 30,364       |
| (純資産の部)   |          |              |
| 株主資本      |          | 77,365       |
| 資本金       |          | 17,180       |
| 資本剰余金     |          | 13,729       |
| 資本準備金     |          | 11,729       |
| その他資本剰余金  |          | 2,000        |
| 利益剰余金     |          | 46,455       |

|              |  |         |
|--------------|--|---------|
| 利益準備金        |  | 685     |
| その他利益剰余金     |  | 45,770  |
| 別途積立金        |  | 24,606  |
| 繰越利益剰余金      |  | 21,163  |
| 評価・換算差額等     |  | 0       |
| その他有価証券評価差額金 |  | 0       |
| 純資産合計        |  | 77,366  |
| 負債・純資産合計     |  | 107,730 |

## 中間損益計算書

|              |          | 自 2020年4月 1日<br>至 2020年9月30日 |
|--------------|----------|------------------------------|
| 区分           | 注記<br>番号 | 金額(百万円)                      |
| 営業収益         |          |                              |
| 委託者報酬        |          | 52,814                       |
| 運用受託報酬       |          | 7,648                        |
| その他営業収益      |          | 178                          |
| 営業収益計        |          | 60,641                       |
| 営業費用         |          |                              |
| 支払手数料        |          | 16,811                       |
| 調査費          |          | 11,994                       |
| その他営業費用      |          | 3,835                        |
| 営業費用計        |          | 32,641                       |
| 一般管理費        | 1        | 13,883                       |
| 営業利益         |          | 14,115                       |
| 営業外収益        | 2        | 6,145                        |
| 営業外費用        | 3        | 33                           |
| 経常利益         |          | 20,227                       |
| 特別利益         | 4        | 2,228                        |
| 特別損失         | 5        | 445                          |
| 税引前中間純利益     |          | 22,011                       |
| 法人税、住民税及び事業税 |          | 5,226                        |
| 法人税等調整額      |          | 739                          |
| 中間純利益        |          | 16,045                       |

## 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位：百万円)

|  |      |
|--|------|
|  | 株主資本 |
|--|------|

|                               | 資本金    | 資本剰余金  |          |         | 利益剰余金 |          |         |         | 株主資本合計 |
|-------------------------------|--------|--------|----------|---------|-------|----------|---------|---------|--------|
|                               |        | 資本準備金  | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 | 利益準備金 | その他利益剰余金 |         | 利益剰余金合計 |        |
|                               |        |        |          |         |       | 別途積立金    | 繰越利益剰余金 |         |        |
| 当期首残高                         | 17,180 | 11,729 | 2,000    | 13,729  | 685   | 24,606   | 29,069  | 54,360  | 85,270 |
| 当中間期変動額                       |        |        |          |         |       |          |         |         |        |
| 剰余金の配当                        |        |        |          |         |       |          | 23,950  | 23,950  | 23,950 |
| 中間純利益                         |        |        |          |         |       |          | 16,045  | 16,045  | 16,045 |
| 株主資本以外の項目の<br>当中間期変動額<br>(純額) |        |        |          |         |       |          |         |         |        |
| 当中間期変動額合計                     | -      | -      | -        | -       | -     | -        | 7,905   | 7,905   | 7,905  |
| 当中間期末残高                       | 17,180 | 11,729 | 2,000    | 13,729  | 685   | 24,606   | 21,163  | 46,455  | 77,365 |

(単位：百万円)

|                           | 評価・換算差額等     |            | 純資産合計  |
|---------------------------|--------------|------------|--------|
|                           | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 |        |
| 当期首残高                     | 10           | 10         | 85,281 |
| 当中間期変動額                   |              |            |        |
| 剰余金の配当                    |              |            | 23,950 |
| 中間純利益                     |              |            | 16,045 |
| 株主資本以外の項目の<br>当中間期変動額(純額) | 10           | 10         | 10     |
| 当中間期変動額合計                 | 10           | 10         | 7,915  |
| 当中間期末残高                   | 0            | 0          | 77,366 |

## [重要な会計方針]

|                         |                                                                                                                                                         |
|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 有価証券の評価基準及び評価方法       | (1) 子会社株式及び関連会社株式...移動平均法による原価法<br>(2) その他有価証券<br>時価のあるもの...中間決算日の市場価格等に基づく時価法<br>(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)<br>時価のないもの...移動平均法による原価法 |
| 2 運用目的の金銭の信託の評価基準及び評価方法 | 時価法によっております。                                                                                                                                            |

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 固定資産の減価償却の方法 | <p>(1) 有形固定資産<br/>定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)、並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。</p> <p>(2) 無形固定資産及び投資その他の資産<br/>定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 4 引当金の計上基準     | <p>(1) 貸倒引当金<br/>一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金<br/>賞与の支払に備えるため、支払見込額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金<br/>従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企業年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。<br/>退職給付見込額の期間帰属方法<br/>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。<br/>数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法<br/>確定給付型企業年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。<br/>退職一時金及び確定給付型企業年金に係る過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金<br/>時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p> |
| 5 消費税等の会計処理    | 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 6 連結納税制度の適用    | <p>連結納税制度を適用しております。</p> <p>なお、当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

## [注記事項]

## 中間貸借対照表関係

| 2020年9月30日現在     |        |
|------------------|--------|
| 1 有形固定資産の減価償却累計額 | 648百万円 |

## 2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他未払金」に含めて表示しております。

## 中間損益計算書関係

|   |               | 自 2020年4月 1日<br>至 2020年9月30日 |
|---|---------------|------------------------------|
| 1 | 減価償却実施額       |                              |
|   | 有形固定資産        | 180百万円                       |
|   | 無形固定資産        | 1,125百万円                     |
| 2 | 営業外収益のうち主要なもの |                              |
|   | 受取配当金         | 4,540百万円                     |
|   | 金銭信託運用益       | 1,360百万円                     |
| 3 | 営業外費用のうち主要なもの |                              |
|   | 時効後支払損引当金繰入   | 10百万円                        |
|   | 為替差損          | 9百万円                         |
| 4 | 特別利益の内訳       |                              |
|   | 投資有価証券等売却益    | 71百万円                        |
|   | 株式報酬受入益       | 26百万円                        |
|   | 移転補償金         | 2,130百万円                     |
| 5 | 特別損失の内訳       |                              |
|   | 投資有価証券等評価損    | 36百万円                        |
|   | 固定資産除却損       | 2百万円                         |
|   | 事務所移転費用       | 406百万円                       |

## 中間株主資本等変動計算書関係

|       |                                                                                                                                                                               |                              |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|---------|------------|----|----------|------|------------|---|---|------------|--|
|       |                                                                                                                                                                               | 自 2020年4月 1日<br>至 2020年9月30日 |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
| 1     | 発行済株式に関する事項                                                                                                                                                                   |                              |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
|       | <table><tr><td>株式の種類</td><td>当事業年度期首</td><td>増加</td><td>減少</td><td>当中間会計期間末</td></tr><tr><td>普通株式</td><td>5,150,693株</td><td>-</td><td>-</td><td>5,150,693株</td></tr></table> | 株式の種類                        | 当事業年度期首 | 増加         | 減少 | 当中間会計期間末 | 普通株式 | 5,150,693株 | - | - | 5,150,693株 |  |
| 株式の種類 | 当事業年度期首                                                                                                                                                                       | 増加                           | 減少      | 当中間会計期間末   |    |          |      |            |   |   |            |  |
| 普通株式  | 5,150,693株                                                                                                                                                                    | -                            | -       | 5,150,693株 |    |          |      |            |   |   |            |  |
| 2     | 配当に関する事項                                                                                                                                                                      |                              |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
|       | 配当金支払額                                                                                                                                                                        |                              |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
|       | 2020年5月19日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。                                                                                                                                          |                              |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
|       | ・普通株式の配当に関する事項                                                                                                                                                                |                              |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
|       | (1) 配当金の総額                                                                                                                                                                    | 23,950百万円                    |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
|       | (2) 1株当たり配当額                                                                                                                                                                  | 4,650円                       |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
|       | (3) 基準日                                                                                                                                                                       | 2020年3月31日                   |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |
|       | (4) 効力発生日                                                                                                                                                                     | 2020年6月30日                   |         |            |    |          |      |            |   |   |            |  |

## 金融商品関係

当中間会計期間（自 2020年4月1日 至 2020年9月30日）

## 金融商品の時価等に関する事項

2020年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりで

す。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(単位：百万円)

|                 | 中間貸借対照表計上額 | 時価     | 差額 |
|-----------------|------------|--------|----|
| (1)現金・預金        | 2,307      | 2,307  | -  |
| (2)金銭の信託        | 40,828     | 40,828 | -  |
| (3)未収委託者報酬      | 24,249     | 24,249 | -  |
| (4)未収運用受託報酬     | 4,560      | 4,560  | -  |
| (5)有価証券及び投資有価証券 |            |        |    |
| その他有価証券         | 10,500     | 10,500 | -  |
| 資産計             | 82,445     | 82,445 | -  |
| (6)未払金          | 11,513     | 11,513 | -  |
| 未払収益分配金         | 0          | 0      | -  |
| 未払償還金           | 0          | 0      | -  |
| 未払手数料           | 6,651      | 6,651  | -  |
| 関係会社未払金         | 4,007      | 4,007  | -  |
| その他未払金          | 853        | 853    | -  |
| (7)未払費用         | 9,953      | 9,953  | -  |
| (8)未払法人税等       | 1,444      | 1,444  | -  |
| 負債計             | 22,911     | 22,911 | -  |

注1：金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1) 現金・預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 未収委託者報酬、(4) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

    その他有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(6) 未払金、(7) 未払費用、(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっており

ます。

注2：非上場株式等（中間貸借対照表計上額：投資有価証券1,701百万円、関係会社株式10,171百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「（５）有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。なお、当中間会計期間において、非上場株式について35百万円（投資有価証券35百万円）減損処理を行っております。

#### 有価証券関係

当中間会計期間末（2020年9月30日）

##### １．満期保有目的の債券(2020年9月30日)

該当事項はありません。

##### ２．子会社株式及び関連会社株式(2020年9月30日)

該当事項はありません。

##### ３．その他有価証券(2020年9月30日)

| 区分                             | 中間貸借対照表<br>計上額<br>(百万円) | 取得原価<br>(百万円) | 差額<br>(百万円) |
|--------------------------------|-------------------------|---------------|-------------|
| 中間貸借対照表計上額<br>が取得原価を超えない<br>もの |                         |               |             |
| 譲渡性預金                          | 10,500                  | 10,500        | -           |
| 小計                             | 10,500                  | 10,500        | -           |
| 合計                             | 10,500                  | 10,500        | -           |

#### 資産除去債務関係

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減（単位：百万円）

|                | 自 2020年4月 1日<br>至 2020年9月30日 |
|----------------|------------------------------|
| 期首残高           | -                            |
| 有形固定資産の取得に伴う増加 | 1,371                        |
| 時の経過による調整額     | -                            |
| 中間期末残高         | 1,371                        |

#### セグメント情報等

当中間会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

## １．セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## ２．関連情報

## (1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 地域ごとの情報

## 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## (3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

## １株当たり情報

| 自 2020年4月 1日<br>至 2020年9月30日                                    |            |
|-----------------------------------------------------------------|------------|
| １株当たり純資産額                                                       | 15,020円52銭 |
| １株当たり中間純利益                                                      | 3,115円15銭  |
| (注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益につきましては、新株予約権付社債等潜在株式がないため、記載しておりません。 |            |
| 2. 1 株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。                             |            |
| 中間純利益                                                           | 16,045百万円  |
| 普通株主に帰属しない金額                                                    | -          |
| 普通株式に係る中間純利益                                                    | 16,045百万円  |
| 期中平均株式数                                                         | 5,150千株    |

## 第２【その他の関係法人の概況】

## １ 名称、資本金の額及び事業の内容

< 更新後 >

## (1) 受託者

| (a) 名称     | (b) 資本金の額 <sup>*</sup> | (c) 事業の内容                                                  |
|------------|------------------------|------------------------------------------------------------|
| 野村信託銀行株式会社 | 35,000百万円              | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。 |

\* 2021年3月末現在

## (2)販売会社

| (a)名称      | (b)資本金の額 <sup>*</sup> | (c)事業の内容                        |
|------------|-----------------------|---------------------------------|
| 野村證券株式会社   | 10,000百万円             | 「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| 株式会社東邦銀行   | 23,519百万円             | 銀行法に基づき銀行業を営んでいます。              |
| 株式会社八十二銀行  | 52,243百万円             |                                 |
| 株式会社きらやか銀行 | 22,700百万円             |                                 |

\* 2021年3月末現在

## 独立監査人の中間監査報告書

2021年4月9日

野村アセットマネジメント株式会社

取締役会 御 中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

亀井純子

## 中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているマイストーリー・株100（確定拠出年金向け）の2020年9月1日から2021年2月28日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、マイストーリー・株100（確定拠出年金向け）の2021年2月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2020年9月1日から2021年2月28日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、野村アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

## 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。  
監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

2020年6月10日

野村アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

|                    |       |       |
|--------------------|-------|-------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 亀井 純子 |
|--------------------|-------|-------|

|                    |       |        |
|--------------------|-------|--------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 櫻井 雄一郎 |
|--------------------|-------|--------|

|                    |       |        |
|--------------------|-------|--------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 津村 健二郎 |
|--------------------|-------|--------|

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第61期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成すること

が適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
- 2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

2020年11月25日

野村アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

|                    |       |      |
|--------------------|-------|------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 亀井純子 |
|--------------------|-------|------|

|                    |       |       |
|--------------------|-------|-------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 津村健二郎 |
|--------------------|-------|-------|

|                    |       |       |
|--------------------|-------|-------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 水永真太郎 |
|--------------------|-------|-------|

### 中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの第62期事業年度の中間会計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間財務諸表に対する経営者並びに監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判

断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) １．上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
- ２．XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。